



Machida Tourist

町田観光 ガイドブック

Guide Book



町田市内の
観光を知る手引書



本書の使い方

- 本書は町田市全域をカバーしています。一部非公開のものも掲載してあります。スポットを巡る際には、周辺環境に配慮し、マナーを守って楽しみましょう。また、個人の敷地内に許可なく立ち入らないようご注意ください
- 巻末に文化財一覧、イベントカレンダーを掲載しましたのでご利用ください。
- 本書とあわせて、当協会が発行するマップやブック類をご利用いただくと、一層理解が深まります。町田ツーリストギャラリー(原町田4-10-20、ぽっぽ町田)で配布・販売しています。
 - ・全体マップ 「町田市観光マップ」「MACHIDA Tourism Guide Map」「MACHIDA CITY GUIDE MAP」
 - ・エリア別マップ 「相原」「尾根緑道を歩こう!」「鶴川・三輪・玉川学園地区」「南地区」

さらに、NPO法人「みどりのゆび」が出版している「まちだフットパスガイドマップ」1、2を合わせて読むとさらに楽しめます。

【観光案内の問い合わせ】

まちの案内所 町田ツーリストギャラリー

☎042-850-9311

(10時~19時、年末年始は休み)



目 次

本書の使い方

1 玉川学園から成瀬周辺を訪ねる	2
2 恩田川の桜並木を漫ろ歩く	8
3 悠久の三輪の里山と史跡を巡る	15
4 鎌倉古道早ノ道・幻の真光寺を辿って	24
5 小野路の里山と谷戸田を巡る	32
6 家康の櫃が通った道の一里塚を辿る	40
7 薬師池公園と鎌倉古道を散策する	49
8 本町田の歴史を旅する	61
9 自然と歴史が響き合う小山田の里	66
10 小山内裏公園と鶴見川源流を訪う	76
11 歴史溢れる相原から小山を歩く	82
12 相原の自然と文化財を訪ねて	90
13 町田の最西端大戸から最高峰の草戸山へ	98
14 絹の道・町田街道と平行する駅前	106
15 本町田・南大谷の歴史を訪ねて	111
16 にぎわいのある新たな街、南町田	119
町田市の主な河川	124
町田市の主な古街道	126
町田市の指定文化財	128
町田市の主要催事・イベントカレンダー	130

玉川学園から成瀬周辺を訪ねる 成瀬地区の公園・城址と社寺を巡る



① き や ま し ぜん こう えん かしの木山自然公園



昭和53（1978）年開園、4.8haほどの面積の園内のほぼ全域を林が占めている。尾根筋には鎌倉古道跡も残っており、古い時代の多摩丘陵の姿を保った、自然溢れる公園。公園の管理事務所を兼ねている「森の家」という建物があり、「かしの木山自然公園愛護会」の活動拠点となっている。「森の家」では各種観察会や

講習会、工作教室など、さまざまな活動が行われている。

公園の中は丘陵に沿って散策路があり、広場、池、見晴らし台と回遊できる。樹木、草花、鳥、昆虫など自然観察のみならず、気分転換の散策に最高の場所といえる。

 西成瀬3-9-9 / ☎042-724-1660 / WC

② く ら か け ま つ こう えん 鞍掛の松公園

その昔、源頼朝の重鎮畠山重忠が鎌倉への往来時、あるいは新田義貞の鎌倉攻めの際に馬の鞍を松の木に掛けて一休みしたという謂われがある。今では鎌倉古道に接した高台の地に名残を見せる。



 西成瀬1-2-19

③ な る せ お の 成瀬尾根



成瀬尾根「しあわせの丘」からの風景

市民の熱意ある活動で護られている、木々と草花に囲まれた緑豊かな谷戸の尾根道。「風の広場」で一休み、「番匠谷戸」の風景で心が和み、山吹緑地近くの通称「しあわせの丘」から眺める町田市と左手の富士山や南アルプスの北岳（冬の晴れた午前中に微かに見える）、そして右手の奥多摩、奥武蔵、秩父山系まで広がるパノラマは、町田市では屈指のビューポイントの一つである。

4 とう うれん じ 東雲寺（曹洞宗 龍谷山成就院）

天文5（1536）年、成瀬城址付近の寺屋敷（現在の共同墓地）付近に創建された。小田原の北条氏が滅亡した後、元和6（1620）年に小机の雲松院の末寺として「龍谷山東雲寺」として現地に再興された。

成瀬、小川、恩田を知行地とした旗本の井戸石見守弘道は、幕末動乱期に浦賀奉行としてペリー提督から米大統領の親書を受け取る重要な役目を果たしたが、その井戸石見守夫妻の墓は当寺にある。また、参道や境内のソメイヨシノは見事。



たんじょうしゃ か ぶつりつぞう 誕生釈迦仏立像

文化財


鑄銅製10cm余りの大きさで、火災にあったために、両足首以下が失われ、手首や肘に損傷がある。全体に焼き肌を残しており目鼻立ちも定かではない。7世紀後半（白鳳時代）に作成されたもので、関東では最古のものである。この誕生仏は、一般のものとは異なり、左手をあげている。わが国の作例では4例のみが知られており、以後の時代にはなく、その由来は不明である。市の有形文化財に指定されており、拝観することができる。6：00～17：30（冬場は～16：30）。



 成瀬4-14-1

5 すぎ やま じん じゃ 杉山神社




 成瀬4-13-16

鶴見川流域には多数の「杉山神社」が存在し、市内では5ヶ所あるうちの一つ。成瀬の「杉山神社」の創建年代は不詳だが、寛文8（1668）年の棟札が見ついている。祭神は日本武尊（ヤマトタケルノミコト）。なお、併祭神は八坂神社（スサノオノミコト）。主祭神の9月の例大祭と7月の天王様と呼ばれた八坂神社の祭礼は隔年で行われる。昭和49（1974）年の区画整理でこの場所に移り、成瀬・高ヶ坂の最初の学校だった“成高学舎”（明治6年東雲寺にて開校）の記念碑も残っている。

⑥ しやま こうえん 城山公園 なるせじょうし (成瀬城址)

恩田川に架かる会下山橋のすぐ近くの上流右岸の高台に、成瀬城址が城山公園として残されている。2回にわたる発掘調査で、宋銭、銃弾などが出土し、中世末期の城郭であることが判明した。位置関係から小机城主北条氏綱の城代・笠原越前守の支城と推定されている。

 南成瀬3-16



⑦ どうのさかこうえん 堂之坂公苑




江戸時代には旗本井戸石見守弘道の穀倉があった場所と伝えられている。隣接するこの地の地主堀江家は名主を務めていた。明治初年になって井戸石見守の夫人や子息が一時期堀江家に身を寄せていたといわれている。現在は堂之坂公苑として市民に開放され、約200種の樹草木が植生し、市民の憩いの場所となっている。

 南成瀬5-8 / ☎042-793-7611 / WC

⑧ しょうわ やっか だいがく やくようしょくぶつえん 昭和薬科大学 薬用植物園

平成2 (1990) 年開設。総面積11.2ha。草木、木本、水生、湿生の4つの植物区からなり、878㎡の大きい温室もある。全国の薬科系大学では屈指の規模を誇る薬用植物園。毎週土曜日に一般公開されており、正門又は西門で署名し、見学カードを身につけ見学できる。団体の場合は、所定の申込み手続きが必要。また、薬草教室も開催されている(日程はHP等で確認を)。



 東玉川学園3-3165 / ☎042-721-1585

9 たまがわがくえんきょういくはくぶつかん 玉川学園教育博物館

玉川学園が創立された昭和4（1929）年当時のわずかな教材標本がはじまり。時間をかけて内容の充実と展示室の拡大を図り昭和62（1987）年に「玉川学園教育博物館」を開設した。教育理念に掲げる「全人教育」の理想を実現するため、広く資料の収集、保存、調査研究、展示、博物館教育などの活動を行う。日本教育史、芸術、民俗、考古、そして創立者小原國芳関係、校史関係など、多岐にわたる。実物に接することが重要との観点から、精選した約500点を展示し、広く学内外に公開。また、独自の企画展を開催するほか、学生の実習の場としても活用されている。事前予約制（入替制）、入場無料。開館状況などは問い合わせを。



📍 玉川学園6-1-1 / ☎042-739-8656

10 まちだしりつそうごうたいいくかん ふきあげばし 町田市立総合体育館（吹上橋）



横浜線の陸橋を抜け、吹上橋に向い、恩田川の遊歩道を左方向に向かえば、恩田川の桜を満喫できる。吹上橋の近くの総合体育館は2,400㎡、1,776人収容のメインアリーナである。全国大会レベルのスポーツイベントも開催されており、サブアリーナ1,101㎡、武道館二面、弓道場、トレーニング室等も備えている。町田のフットサルチーム“ペスカドーラ町田”のホームゲームが開催される。

📍 南成瀬5-12 / ☎042-724-3440 / WC

PICK UP ▶▶▶

ASV ペスカドーラ町田

町田市をホームタウンとするフットサルチーム「ASV ペスカドーラ町田」。黄色と黒のチームカラーが目印で、国内トップリーグであるFリーグのディビジョン1（1部）に所属し、日本代表選手も数々輩出している。町田市立総合体育館をホームスタジアムとしている。



PICK UP▶▶▶

成瀬台が映画「ホームカミング」ロケ地に

作品内「お祭り」の舞台となった成瀬台公園



成瀬台を中心にロケ撮影が行われた、映画「ホームカミング」(2011年公開)。高田純次さん扮する主人公が定年退職後、かつて理想のまちと言われ、現在は高齢者が多く活気が無くなってしまったニュータウンを舞台に、まち興しをしようと「お祭り復活活動」を始める物語。成瀬台の地元住民もエキストラとして参加した。

ロケ地へのツアーのために撮影地を訪れた飯島監督



監督を務めた飯島敏宏さんは「金曜日の妻たちへ」や「ウルトラマン」などの人気シリーズを多く手掛けたヒットメーカー。成瀬台団地で暮らしていた縁で、映画の舞台となった。

飯島監督は令和3(2021)年10月に89歳で死去。令和4(2022)年12月には、飯島監督がスペシャルアドバイザーを務めていた「グローイングアップ映画祭・鶴川ショートムービーコンテスト」によって、「ホームカミング」の追悼上映が和光大学ポブリホール鶴川で行われ、出演者の柳沢ななさんらがトークイベントに参加。撮影時の思い出などを語った。

お散歩グルメ情報



どいっや 独逸屋



ページは、まちだ名産品に指定され、極上の味を誇る知名度抜群のお店。

オランダ国際コンクールで「ロースハム」が金賞受賞。「町田私の好きなお店大賞」にも選ばれているお店で、3種類の手づくりハムとソー

成瀬台2-2-8 ☎042-721-7401 火曜定休



かげっ 菓匠 華月



和菓子の「七国山」「鞍掛の松」「禅寺丸の里」はまちだ名産品に指定され、季節限定の和菓子もある。恩田川の高瀬橋から近く恩田川沿いの遊歩の際には立ち寄ってみたいお店。

成瀬8-4-13 ☎042-725-2989 火曜定休

恩田川の桜並木を漫ろ歩く 成瀬 (恩田川~成瀬駅~つくし野)



大正15 (1926) 年に国の指定史跡となった高ヶ坂石器時代遺跡、町田市内でも古い歴史をもつ祥雲寺を巡る。春の桜シーズンは、つくし野駅前から恩田川の兩岸の桜を満喫できるエリアで町田市の桜名所の一つである。



① せりがやこうえん 芹ヶ谷公園



町田駅から10数分の近さにあり、谷戸を利用した公園。版画美術館側の公園入口から、小田急線の線路脇まで奥行きが1km程で、約11.3haの広さがある。広場や噴水、浅い池、水路は子どもの遊び場となり、朝夕には散歩の人が多い。飯田善國氏のオブジェ「虹と水の広場」が広場中央にあり、周辺

には高橋清氏の「開かれた宇宙」など芸術品が楽しめる。春にはソメイヨシノ、ヤマザクラなど約100本の桜が咲き乱れる。公園の奥には、自然公園、遊具、菖蒲池などもあり、休日にちょっとお弁当などを持って出かけるにはとてもよい公園である。

◆ ポケふた

令和2（2020）年8月、園内に東京都で初となるポケモンマンホール「ポケふた」が設置された。町田市のシティプロモーションの一環として、ゲームやアニメ、映画などで世界的な人気コンテンツ「ポケットモンスター」をマンホールの蓋に起用したポケふた6種類6枚を設置。ゲームクリエイターでポケモンの生みの親である田尻智氏は町田で少年時代を過ごした。



©2021 Pokemon.
©1995-2021 Nintendo/Creatures Inc./
GAME FREAK inc.



◆ せりがやぼうけんあそびば せりがや冒険遊び場（せりぼう）

平成26（2014）年に市内初の常設型冒険遊び場として芹ヶ谷公園内にオープン。運営はそれまで成瀬・三ツ又の「たぬき山」でプレーパーク活動を行っていたNPO法人が務めている。子どもたちが自然の中で、火を使う、地面に穴を掘る、木に登る、秘密基地を作るなど自分の責任で自由に遊び、「冒険」や「挑戦」、そして「体験」を通じ成長できる場として人気。手づくりパズルやステージなどのイベントも開催され、市内外から大勢の子どもや親子連れが集まる。

📍 原町田5-16 / WC

② まちだ しりつ こくさい はん が び じゅつかん 町田市立国際版画美術館



版画専門の美術館として、昭和62（1987）年に芹ヶ谷公園内に開館。町田在住の版画家である畦地梅太郎氏の作品が寄贈されたのをきっかけに建てられた。版画美術館は、古今東西の版画の歴史を学べ、版画のことならすべて理解できることを目指して造られたユニークな美術館。

2万点以上におよぶ収蔵品のなかには歌川広重の『東海道五拾三次』全55点や、葛飾北斎の『百人一首うばが爰とき』をはじめ、棟方志功や池田満寿夫といった著名な作家の作品が多数ある。

また海外作品もアルブレヒト・デューラーやレンブラントなどのヨーロッパの古い版画からゴッヤ、ピカソらの名品、そして現代の作品にいたるまで、幅広く収蔵。常設展に加え、特別企画展にも意欲的に取り組んでいる。また、版画工房やアトリエもあり、指導も受けられる。併設の喫茶“けやき”からは公園の緑がのぞめ、ゆっくりと過ごせる。

📍 原町田4-28-1 / ☎042-726-2771 / 月曜定休 / WC

③ くま の じん じゃ 熊野神社



創建年代は不詳。ただし室町時代の小山田庄内では熊野詣が流行しており、この頃熊野三山より勧請したものといわれる。昭和30（1955）年頃に枯渇して伐採された境内の樹齢600年の大杉のご神木は創建時に植えられたものと伝えられている。主祭神は伊邪那岐命、伊邪那美命で縁結びの神として崇められる。併祭神は明治期に合祀された日枝山王社・大山昨命・浅間社・此花咲那姫等である。境内は桜一色で4月の境内社桜稲荷社祭にはお花見を兼ねて祭が賑やかに行われている。

📍 高ヶ坂2-38-1

④ まつ ば や と こう えん 松葉谷戸公園

成瀬駅から町田駅に向かうJR横浜線の線路沿いにある緑豊かな木々に囲まれた公園。

📍 成瀬が丘3-1109-3 / WC




5 こうがさかせっききじだい いせき 高ヶ坂石器時代遺跡

文化財




大正15（1926）年に丘陵地における住居跡発見第1号として国史跡に指定された。この遺跡は、牢場・稲荷山・八幡平^{はちまんたいら}の3つの遺跡からなる。牢場遺跡は縄文中期末（今から約4,000年前）の敷石住居跡で、平成29（2017）年に履屋が建て替えられ、周辺も整備されている。入口はややわかりにくい^が、成瀬街道に面している。

 高ヶ坂2-43-2

6 はちまんたいらいせきこうえん 八幡平遺跡公園



芹ヶ谷公園に接した土地にあり、平成26（2014）年3月に策定した「高ヶ坂石器時代遺跡保存管理計画」に基づき、整備工事が進められ、令和3（2021）年4月にオープンした公園。縄文時代中期末の敷石住居跡が発見されたところで、遺構の様子は埋め戻した場所の上に再現されている。休憩できる東屋なども設けられ、高台で眺望が素晴らしく、晴れた日には遠く横浜ランドマークタワーなども見渡せる絶好の場所である。

 高ヶ坂2-1645-6




遺跡からの眺望

7 りゅうたくさんしょううんじ 龍澤山祥雲寺（曹洞宗 滝沢山）



後北条氏の武運長久を祈願する寺として開山された。当寺は本山が小田原最乗寺で、江戸時代には80年に1回本山最乗寺の輪番住職を務めた。御朱印高は15石。町田市内寺院では最高の石高である。また、観音堂の本尊は聖観世音菩薩立像で身代わり観音として有名。行基作と伝えられているが、昭和34（1959）年、東京都の調査により平安中期の像と認められた。秘仏で12年に1回卯年に開扉され拜むことができる。武相卯年観音霊場37番札所。

 高ヶ坂7-15-1 / WC

⑧ おんたがわゆうほどう 恩田川遊歩道

昔の恩田村を流れていたのが恩田川と名付けられたが、古くは町田川と呼ばれていた。一級河川で横浜市緑区中山町で鶴見川に合流する。兩岸の満開の桜を眺めながら、成瀬中央橋、西山橋、会下山橋と進み、左手の城山公園（成瀬城址）を過ぎ、琵琶を持った容姿端麗な女神の弁財天（河神）のある弁天橋公園を向こう岸に望みつつ、弁天橋、鹿島橋を過ぎる。



⑨ たかせばし 高瀬橋



恩田川で体育館から上流へ約2.5kmの距離にあり、高ヶ坂と成瀬の境目となる橋であることから名付けられた成瀬街道に架かる橋である。左岸に親水広場があり、川面に近づくことができる。下水道の整備により水質が改善され、放流された鯉だけでなく、オイカワ、鮎、ドジョウ等がみられる。この先の旧高瀬橋は、町田街道（神奈川道）が横浜港へ向かう絹の道のメインルートであるが、三塚の交差点から成瀬街道をたどり旧高瀬橋を通る古道は、川和道と呼び、神奈川方面へ向かう物流の道でもあった。

⑩ はらいせき なすな原遺跡


町田市の代表的な縄文時代の遺跡。昭和50（1975）年から5年間、発掘調査が行われ、市最古の隆起線土器（約14,000年前）や縄文時代で最も新しい晩期（約2800年前）の透かし彫り土製耳飾り（12点一括り）が注目され、これら2件は市の指定有形文化財になった。町田市南成瀬と横浜市緑区にまたがる約51,800㎡の土地で、現在は東急長津田車両基地になっている。



11 のとのやま もり つくし野殿山ふるさとの森

JR横浜線陸橋の手前右手にあり、特別緑地保全地区に指定されていて、森というよりは木々が生き茂る小高い山である。昔の殿様の屋敷跡だと言い伝えられたことから殿山と呼ばれる。明治41（1908）年に開業したJR横浜線の敷設工事の際、殿山の一部が削られたが、そこからは縄文時代の住居跡や古墳が見つかっている。



 つくし野1-17

12 まつむらてい べに さくら 松村邸“紅しだれ桜”



3月下旬の見頃の時期には、松村家の厚意により樹齢60年の紅しだれ桜を観賞できる。市民が訪れる中では、町田市随一と言っても過言ではない紅しだれ桜の名所である。

 高ヶ坂7-15-1

コラム

はらしまげんう えもん 成瀬の土地を守った原嶋源右衛門

戦国末期、成瀬村東光寺集落と長津田村集落との間で入会地の新田開発境界をめぐる争いがおきた。もつれにもつれた末、役人に検地してもらうことに。役人が東光寺集落の主張するところを掘ると地中から木炭が出てきて、これが境界線と認められた。しかし、この木炭は埋められてから、あまり時間がたっていないことがわかり、境界を守るために偽ったことが知られてしまった。この結果、

中心人物の原嶋源右衛門が捕らえられ、彼の家族もことごとく処刑されてしまった。東光寺集落の人たちは、土地を守った原嶋一家の骨を拾って、原嶋家の屋敷跡に埋葬し、「成瀬義民原嶋源右衛門」と讃えて供養塔を建てた。近年までは、お盆や彼岸などに東光寺講中で供養したという。この供養塔は今も成瀬の中里氏邸内に残されている。（『町田の民話と伝承』より）

お散歩グルメ情報



ホームデリカ TAICHI 「成瀬ギョーザ」は、まちだ名産品に指定された、腸詰めギョーザソーセージ。2009年度「町田私の好きなお店大賞」に選ばれた。店主の温かい人柄も魅力。

成瀬が丘3-4-12 ☎042-799-0229 日曜・月曜定休



悠久の三輪の里山と史蹟を巡る 市境に残る豊かな自然と歴史の営みを感じつつ



古代から住みやすい土地であり、古代の集落跡、瓦窯跡や横穴墓群などが残っている。ここが三輪と呼ばれるのは、奈良時代に大和の国三輪から当地に移り住んだことからと言われ、長い歴史を誇る地域である。それだけに、古い寺社仏閣も多く見ごたえのある地域である。整った住宅地ながら里山が残り、寺家ふるさと村に至る風景は美しい。

① ばとうかんのん 馬頭観音



頭上に馬頭をいただき、憤怒の表情で一切の魔・煩惱を排除する馬頭観音に、馬の無病息災と往来の無事を願って天保10（1839）年に建立。天保2～9年にかけての大飢饉の厄落とし祈願でもあったと考えられている。

📍 本村橋沿い（川崎市麻生区岡上）

② かまくらこうどうはやみち 鎌倉古道早ノ道

岡上橋から東光院前を通り、突き当りの左手石垣のある細い道を通って岡上廃寺址の傍らを抜け、現在の真光寺長津田線と合流する道が「鎌倉古道早ノ道」とされている。元弘3（1333）年、新田義貞の大軍が鎌倉攻めにあって色々な道を通って行軍したが、このルートを通った軍勢が、いち早く鎌倉に到達したことから、「早ノ道」と呼ばれるようになったという。比較的直線的で起伏も少ない尾根道を通り、集落もまばらであったことから早く進むことができたものと思われる。府中から多摩市の連光寺に残っている「早道場」、黒川、広袴、能ヶ谷、岡上、そして、この道から、長津田を経て中山で「中ノ道」に合流する。



③ とうこういん（単立寺院 岡上山東光院宝積寺）

文化財



📍 川崎市麻生区岡上217

奈良時代の前期、行基菩薩（668～749）が、草庵を建てて奉安したのが始まりと伝えられる古刹。本堂は平安末期（1100年頃）の作といわれ、川崎市の重要歴史記念物指定となっている木造の「兜跋毘沙門天立像」を安置。2階建ての朱塗りの仁王門（江戸後期）、仁王門裏の六地藏、鐘撞堂、五重塔などが緑豊かな高木の林の中に建ち並び、見事な桜の古木もある。三代将軍家光より寺領15石の御朱印を賜っている。奥に瘡守社が祀られている。

4 おかがみじんじゃ 岡上神社



📍 川崎市麻生区岡上809

明治42（1909）年に岡上村中にあった5社を合祀。敷地は村の中央にあった諏訪神社の場所で、岡上神社と名称を改めた。参道には多くの石造物が並び、堅牢地神、青面金剛塔、その隣の小屋には金勢大明神、水天宮が祀られている。拝殿は大正15（1926）年に再建されたもので拝殿上部の鳳凰、龍の彫刻が見事。日露戦役出兵者の奉納額がある。歴史的に柿生村との結びつきが強く、昭和14（1939）年に岡上村は柿生村とともに川崎市への合併を選び飛び地となっている。

5 くまのじんじゃ 熊野神社

文化財

当社は、古くより上三輪の守り神として下三輪の檀山神社同様に崇拜されてきた。その後、熊野信仰が全国に広がりをもせた頃に熊野三山より祭神伊邪那岐命（いざなぎのみこと）、伊邪那美命（いざなみのみこと）を勧請し改称したとされる。本殿は江戸中期のもの（市文化財）。桁行2尺7寸5分（91cm）、梁行2尺4寸5分（81cm）、向拝の出2尺6分（68cm）の流れ造りの本殿である。社殿は昭和48（1973）年に再建。左手にあるアカガシは、ご神木。樹齢300年以上で、町田市名木100選に選ばれている。



📍 三輪町1925-1

コラム

盗まれたご神体

上三輪の熊野神社は大正4（1915）年に改築することになった。当時ご神木（アカガシ）の近くにあった神社の奥殿を壊したときに、石がたくさん出てきた。これらの石は、改築された拝殿と奥殿との廊下の下に敷き詰めたという。その中にとくに珍しい変わった

石が出てきた。これは、ご神体だろうということになり、ご神木の脇に置いたところ、2、3日するとこの石はなくなっていた。現在でも不明でその行方は知れない。（『町田の民話と伝承1』より）

⑥ こうけいじ 廣慶寺（曹洞宗 三輪山）



📍 三輪町1609

元龜3（1572）年、室町時代に高津村作延で開基。天正12（1584）年に当地に遷化。本尊は、南無世継無量寿觀世音菩薩。文政4（1821）年、現地に茅葺屋根の本堂を再建。当寺にある薬師如来木像は、明治5（1872）年に小野路にあった清淨院が廃寺になる際に買い求めて入壇したという。田を横断した参道には、小型の鐘が108個並んでいて、独特の風景を醸し出している。

⑦ こうぞうじ 高蔵寺（真言宗豊山派 見星山三輪院）

正平17（1363）年開山。本尊は、木造の大日如来坐像（1尺5寸）で正保2年（1645）作。当寺は足利家代々の祈願寺として建立されたものといわれ、御朱印11石5斗を寄せられた寺格をもつ。当寺は多摩新四国八十八ヶ所第十番札所また東国花の寺百ヶ寺の札所に指定され「石楠花の寺」としても有名。その俳句を入れた金の御朱印と銀の御朱印の特別御朱印を頒布している。また、四季折々に咲く草木、せせらぎと水車も揃えた境内は参拝者の心を癒す。昭和10（1935）年、北原白秋夫妻が訪れ、第10歌集「椽の朱」の中に「高蔵寺を訪ねて」と題し、「高蔵寺 しづかやと散葉 眺めいて 梢の柿の つやつやしいろ」など七首を読むほどに趣のあるお寺。



📍 三輪町1739 / WC

⑧ みわみなみいせき 三輪南遺跡

文化財



📍 三輪緑山3-21

三輪土地区画整理地内の発掘調査で見えられた奈良時代後期から平安時代中期の集落跡。奈良時代後期の瓦窯址からは300点ほどの瓦が出土した。近隣の寺院建立等に使用されたものではないかと推測されている。また、平安中期の住居跡1基も発見された。現在は、公園内に整備保存されている。

9 すぎやまじんじゃきたいせき 梶山神社北遺跡

文化財

昭和54（1979）年、三輪小学校建設時の発掘調査で町田市域では珍しい弥生時代後期の住居跡や土器を組み合わせた墓などが発見された。弥生時代の壺棺墓の発掘は町田市域で初めて。更に高さ15cmほどの弥生式土器や4000年前の縄文時代中期の土器も発掘されている。

📍 三輪小学校敷地内西端部（現在は看板のみ）

10 すぎやまじんじゃ 梶山神社

下三輪にある当社は、『日本書紀』『古事記』にもある奈良大和の三輪の里（奈良県桜井市三輪町）大神神社から元慶元（877）年に勧請されたとの伝承がある。祭神は、日本武尊（やまとたけるのみこと）、大物主命（おおものぬしのみこと）等。ご神体は不動明王が鑄造された円形の御鏡。地域一帯から祭事に使用されたと思われる土器が多数発掘されており、古くから当社は神奈備（かなび 神の鎮座する山や森）の地としてあがめられていたものと推定されている。梶山神社は、山を背にして建てられており、裏山は三輪山を大神神社の御神体に見立てていると考えられている。この梶山神社は、町田に数多くある杉山神社のひとつで、杉山神社については『都筑の歴史を語る 私説杉山神社考（飯田俊郎著）』がある。数多くある杉山神社で「梶」（国字）を使用しているのは当社のみ。1370年代の古文書に「武蔵六所宮（府中大國魂神社）の六宮は梶山明神と記す」とあり、由緒ある当社は、この「梶山」を使用したものと言われている。



📍 三輪町1618

11 つるかわじぞうそんじぞうどう 鶴川地蔵尊地蔵堂



享保18（1733）年開山。明治元（1868）年まで正善寺と称して高蔵寺の末寺であったが、廃寺となる前に高蔵寺の別院となり、現在は鶴川地蔵尊地蔵堂として親しまれている。新堂は昭和51（1976）年建立。本尊は地蔵菩薩（16世紀室町時代の作）。正保3（1646）年に作られた厨子は、町田市内には類をみないもの。寺宝の百万遍数珠（約12m）は、村を厄病から救った災難除けの数珠で正月3ヶ日、厄除けとして触れることができる。

📍 三輪町1556 / WC

12 しらさかおうけつぼぐん 白坂横穴墓群

文化財

白坂と呼ばれる急な坂道の斜面、凝灰岩質の地層に7世紀頃と推察される横穴墓群が13基発見され、そのうちの2基が保存されている。出土品には数人の人骨、須恵器などがある。



📍 三輪町1720 - 7

13 しもみわぎょくたやとおうけつぼぐん 下三輪玉田谷戸横穴墓群

文化財

横浜市青葉区との境界稜線にあり、昭和2(1927)年、内部壁面に「家形彫刻を有する横穴」として貴重なものと評価されて東京都の旧跡に、平成20(2008)年に都の史跡に指定された。7世紀のもので、1号横穴墓は切妻式屋根を表現したものと思われる彫刻、3号横穴墓には16本の垂木が浮き彫りされている。死者が、現世にあるという古代人の未来観によるものではないかと考えられている。なお、観察には懐中電灯が必要。ここからは、寺家ふるさと村に向かうが、山谷の切り通しに行ける小径もある。



📍 三輪町897

14 にしやとおうけつぼぐん 西谷戸横穴墓群

文化財



📍 三輪緑山1-25-8

下三輪の椋山神社南側から北東に長細く伸びる西谷戸。その凝灰岩質の丘陵部にある横穴墓群は、横並びに9基が発掘されている。7世紀に造られた有力者一族の墓と見られている。昭和58～59(1983～1984)年の調査により5基からは人骨の一部や副葬品としてのガラス小玉や圭頭太刀、鏢などの刀装具が出土している。フェンスで囲われており、中を見ることはできない。また、夏には草が茂り横穴墓が分かりにくい。

15

みょうふくじ

妙福寺 (日蓮宗 長祐山)

文化財



池上本門寺、鎌倉妙本寺両山の旧末寺。明徳2(1391)年日億上人により開山。本堂(市文化財)には、如来坐像(室町末期)と日蓮上人坐像(江戸初期)が安置されている。都指定文化財である祖師堂は、寛文12(1672)年池上本門寺から祖師日蓮像、厨子(1659年頃製作)と共に贈与され、翌年移築されたもの。桃山時代の様式を伝え、池上本門寺

の古建築の遺構を残すものとして貴重。当初の金箔が残る重厚な建物で、昭和44(1969)年に解体修理されている。本堂、高麗門(総門)、鐘楼門は町田市有形文化財。鐘楼門は、上層に鐘を釣った一間楼門で棟札より延享3(1746)年に建てられたことがわかる。高木に囲まれた広い境内は、心静かに参拜することが

祖師堂



高麗門



鐘楼門



できる。参道脇に、町田出身の俳人・石川桂郎没後に建立された句碑がある。



三輪町811

お散歩グルメ情報



シュルツ カフェ



自然素材にこだわり、店内で全て手づくりしたフード・お菓子・天然酵母パ

ンが楽しめるログハウスカフェ。お得なランチタイムセットやケーキセットもある。席数 26 席とテラス6席。

三輪町375-2 ☎044-980-4714
不定休



緑山松田家



住宅街の一軒家で、夜1組、昼2組限定、完全予約制の隠れ家レストラン。結婚記念日や誕生日の祝い事や家族、親戚、友人との会食など、周りを気にせずゆっくり過ごせる。フランス、スペインの星付きレストランで経験を積んできたシェフによる正統派フランス料理のコースは絶品。

三輪緑山3-18-20 ☎044-572-4820
月曜定休

16 さん や き どお 山谷の切り通し

寺家から右に折れて続く細い山道は町田市域の鶴川22号線。全長355m、幅員1.8mで側溝のない簡易舗装道路には、地層が5〜7層ほど見事に浮き出た「切り通し」があり、圧倒的な迫力をもって迫ってくる。その先、鶴川23号線が通る山谷は、両側から丘陵斜面が迫っている狭い谷戸。耕せる田畑に限られていたことから、昔より隣りの寺家、早野、麻生などの村々に出作に行くことが多く、養蚕、養鶏、牛等をも飼って現金収入にする生活であったといわれている。三輪に残る最も美しい里山の風景。この景色を堪能してほしい。小川には、小魚、ザリガニ、えび、かわにな、蛸などの小さな生き物そして、自生する草花などの植生が残り、春から秋にかけて道端を飾る。



17 じ け むら 寺家ふるさと村



横浜市が展開している「横浜ふるさと村」の1つ。全域86.1haが自然保護区に指定されており、水田を核に自然と農業の素晴らしさを伝えていきたいとの願いから、地域住民と横浜市が一体となって守り育ててきた地域。小高い丘陵部にはクヌギ、コナラなどの多い

雑木林の散策路があり、いくつかの溜池もあって里山の原風景を体験することができる。総合案内を行う「四季の家」をはじめ、食事処や郷土文化館など各施設がある。



横浜市青葉区寺家町414 / ☎045-962-7414 / WC

18 さわやとしぜんこうえん 沢谷戸自然公園



📍 三輪緑山4-1-18 / WC

岡上との境にある新田谷戸、西谷戸と共に、沢谷戸は三輪の三大谷戸と呼ばれる。三輪緑山の開発により田んぼだった部分が自然公園として生まれ変わった。中央の多目的広場や噴水広場、チビッコ広場、芝生広場など、ゆったり楽しめる。車椅子でも訪れやすい公園。3月～8月頃まで、鶯谷と呼ばれるほどに美しい鳴き声がこだまする谷戸は、訪れる人を和ませ、春にはつつじが咲き誇る。

19 みわもり 三輪の森ビジターセンター

横浜市との市境に位置する都市計画緑地「三輪緑地」。市民団体の人たちと一緒に維持保全活動を行ってる同緑地の入口に、散策拠点として平成30(2018)年4月に開館。休憩室のほか、展示室では消防ポンプや水車歯車などの郷土資料を閲覧できる。なお緑地内には下三輪玉田谷戸横穴墓群がある。



📍 三輪町740 (駐車場なし) / ☎042-724-4399 / WC

20 まちだ みわもりやま FC町田ゼルビア 三輪緑山トレーニングセンター



📍 三輪緑山1-1 / 原則月曜日～土曜日開放

サッカーJ2リーグに所属するFC町田ゼルビアが、J1昇格を目指し整えたクラブハウスがある三輪緑山トレーニングセンター。隈研吾設計のクラブハウスは圧巻。散策路とアウトドアスペースは市民に開放されており、天然芝グラウンドも事前予約制で貸し出している。散策路入口の掲示板を参照。


鎌倉古道早ノ道・幻の真光寺を辿って 白洲次郎・正子夫妻が愛した里めぐり



① かきあん 可喜庵




能ヶ谷開拓に貢献した鈴木家の分家にあたる鈴木工務店の先代が自宅として使用していた茅葺屋根の古民家で、文久3（1863）年に建てられた。現庵主が温めてきた構想「田舎の原風景が残る暮らしのサロンとして活かすこと」をテーマに、各種の催事を企画している。私有地であり、催事時以外は庵内に入れない。庵内観賞希望者は、予め鈴木工務店広報に問い合わせのこと。

 能ヶ谷3-6-222 / ☎042-735-5771

② みょうぎょうじ 妙行寺（日蓮宗 能谷山）


天授元（1375）年開山。多数の仏像を所蔵。本尊は、三宝諸尊。寺宝は、貞享年間（1684～1688年）のものとして推定される日静の筆による経石と日蓮真筆の十二字の遺文。山門は総けやき造り。本堂は昭和45（1970）年再建。境内のサルスベリの古木の途中からは、松の枝が生き活きと伸びており、この不思議な古木は一見の価値。極めて急な石段を登らないと山門にいたらない。自信のない方には、なだらかな参道からの参拝がお勧め。



 能ヶ谷4-20-16

③ のうがやじんじゃ 能ヶ谷神社



 能ヶ谷6-20-1

正保年間（1644～47年）の創建で、同社は明治8（1875）年まで東照宮と呼ばれ、大正3（1914）年には、打越の住吉神社、宮下の天照大神社ほか、神明社、表谷神社の4社を合祀し、社名を能ヶ谷神社とした。平成20（2008）年12月29日、檜造りの社殿を焼失したが、平成22（2010）年11月に再建された。祭神は、徳川家康公、天照皇大神、大日靈尊、表筒男命、中筒男命、底筒男命、大山咋命である。ご神木は、幹が力強いやぶ椿。

④ あとりえ・う

木版画家・畦地梅太郎（平成11（1999）年4月、96歳で逝去）の自宅アトリエの一部を開放して作品・道具等を展示、オリジナルグッズも販売。昭和51（1976）年から亡くなるまでこのアトリエ兼自宅で作品制作をした。



同氏は「山の版画家」として有名で、山岳風景等をモチーフにした温かい作風で知られ、国際的にも活躍。町田市立国際版画美術館と故郷である愛媛県松山市の畦地梅太郎記念美術館に多数の作品が所蔵されている。開館日はHP等で事前に確認を。

📍 鶴川1-13-12 / ☎042-734-8536

⑤ きゅうしらす ていぶ あいそう 旧白洲邸 武相荘

文化財



この地を愛した白洲次郎・正子夫妻が昭和18（1943）年より移り住んだ茅葺屋根の母屋・納屋など、ほぼ全域を公開。正子の書斎や家族の居間、家具、持ち物、写真類、調度品や実際に使った農機具等が展示されている。平成14（2002）年に市指定史跡に指定されている。「武相荘」の名は、吉田茂元首相の懐刀として知られた次郎が、武蔵・相模の境に位置することと自身の無愛想をかけて命名した。著書や記念品の購入、レストラン&カフェでは次郎が愛した味を楽しむことができる。

📍 能ヶ谷7-3-2 / 042-735-5732 / 月曜定休 / WC

⑥ こみんか みんなの古民家



築150年となる茅葺屋根の古民家のレンタルサービスを行っている。市内で代々続く農家・石川家が昭和52（1977）年まで暮らした母屋で、平成26（2014）年のオープン以来、映画やドラマ、写真撮影、コスプレ撮影会、親睦会など商用利用・個人利用問わず、様々な目的で利用されている。

📍 能ヶ谷7-23-11 / ☎080-5039-4863 / 不定休

7 みょうぜん いん 妙全院（曹洞宗 不動山）



📍 広袴2-14-23 / WC

寛永12（1635）年の開基。古くからの広袴住民を檀家にもつ。参道正面に本堂、庫裏、本堂手前に鐘楼、南無聖観世音菩薩像、そして彫刻（安田侃制作）を配置。本尊は、釈迦牟尼仏。石仏も多く、青面金剛三猿（宝永4（1707）年）、白山妙理大権現（宝永3（1706）年）、などが並ぶ。平安時代、中將姫がこの地に流罪となり都に帰れない宿命を知り、刻んだ数多くの観音像の一体が、この寺の観音像との伝承があり、地域の養蚕と結びついて糸引観音信仰となった。

8 ひろばかま ふ どう ぞん 広袴不動尊

『鶴川村誌』に妙全院所管の不動堂とある。「その昔六部が、不動様を入れた厨子を下ろして休憩し、再び担ごうとすると重たく背負えなかったことから、お不動様は、この地にいたいのだと悟り、小さな社を建てて祀った」



というのがはじまりという伝承がある。今のお堂は、関東大震災後に再建されたもの。柳田国男は昭和18（1943）年、この地で妙全院、広袴不動尊等を訪ね、著書『民間伝承』に「この広袴という村は、なにか古い事の探し出せそうな村だが」と記している。この時期、柳田は町田に興味を持ち成瀬・本町田・三輪にも足を運んでいる。

📍 広袴2-14-47

9 にし やま び じゅつかん 西山美術館



彫刻はロダン、絵画はコトリロの作品に焦点をあて展示している。個人美術館で、周辺は多摩丘陵に連なる地形を活用し、江戸時代中期における武家風商家屋敷をコンセプトにしている。7000坪の敷地に1400トンの山形産鳥海石2000個を配した庭園や、つつじ、梅、松、桜などの植物も見どころ。マイセンで飲むコーヒーも売り物である。

📍 野津田町1000 / ☎042-708-2480 / 月、火曜日定休

10

ひろばかまこう えん

広袴公園

真光寺川の上流端となっている広袴公園は、広さ1.0haの調整池と周囲0.8haの規模で、平成3~4(1991~2)年にかけて鶴川台開発にあたって、田や畑を掘り起こして作った人工のもの。1本の柳が立つ中の島や、真光寺川の運んだ土砂が蓄積されてできた西側の柳、蒲、葦などが茂る土溜まりは、野鳥の楽園。数種類の鴨、鷺類、川鶺、カワセミ、バンなどを観察することができる。



広袴3-4-1/WC

11

神明社

文化財



広袴町444

創建年代は不詳。江戸時代には妙全院が別当として司祭していた。嘉永7(1854)年頃には、広袴に7社あった神社も明治以降この神明社に合祀されている。現在の社殿は、昭和25(1950)年に再建されたもの。主祭神は天照皇大神、総本社は伊勢神宮。境内には合祀した神社の石祠が並び、5猿を刻んだ青面金剛像は、延宝7(1679)年に造られ、他所より移されていると思われる。

12

つるかわだい お ねりょくどう

鶴川台尾根緑道・真光寺緑地

しんこう じりょくち



真光寺緑地/真光寺2-4-3

町田市が管理する川崎市麻生区との境界尾根緑道・真光寺緑地は、緑豊かな自然の残る道である。緑地の広さは3.1ha。真光寺・広袴の新しい街並みが尾根近くまで迫りたつ景観が、眼下に広がる。この緑道は、古より利用されており、鎌倉古道早ノ道の尾根ルートと推定されている。尾根道からは、遠く丹沢連峰そして富士山を望むことができる。

13 かん せん じ 観泉寺（曹洞宗 金光山）



元和元（1615）年大坂の陣で戦死した父（地頭職）の菩提供養のため、飯田次郎右衛門昌重が持仏の観世音菩薩半跏像（木像）の胎内に父の遺髪を納めて開基。小山田の大泉寺の和尚を迎えて開山、寛永3年（1626）に開創したといわれる。寺伝によると、天台宗真光寺廃寺址に当山を建立したと記され、その際に、宗派

を天台宗から曹洞宗に、寺名を真光寺から観泉寺に改名したという。本尊の聖観世音菩薩は寄木造りで、室町時代初期（1400年頃）の作で、像底部の結縁者の名に見える住職名から、廃寺となった真光寺の本尊ではないかとも言い伝えられている。脇本尊「観世音菩薩立像」も室町時代初期（1430年頃）の製作、もうひとつの脇本尊「観世音菩薩半跏像」も室町時代後期（1460年頃）のものとして認められている。観泉寺の脇を真光寺川の源流が流れ、グラウンドとなっている場所は、真光池と言われていたという。



真光寺町1210

14 いい もり じん じや 飯守神社

飯守神社（通称めしもり神社）の裏山は飯盛山あるいは御殿山と呼ばれている。山の斜面に位置するのが飯守神社。祭神は興津彦命、保食神でいずれも農業神である。慶安3（1650）年には、領主飯田次郎右衛門重家、観泉寺住職等によって遷宮されて飯盛明神と称している。昭和61（1986）年鳥居の改修工事時、古墳時代前期の祭祀用土器が出土して、当地が神奈備の森であったことを伺わせている。また、当社は、武蔵の総社「六社宮」（現・大国魂神社）と関わりがあり、総社例大祭（くらやみ祭）に、「飯物」を奉納してきたことから、この社の名前が起ったとも伝えられている。なお、飯守神社の裏山の斜面には、地頭（旗本）飯田昌重の屋敷があったという伝承がある。本殿は、文化7（1810）年建築。覆殿・拜殿は昭和41（1966）年に建てられた。境内のケヤキは樹齢300年余、町田市名木100選に選ばれている。




真光寺町189

15 しんこうじ 真光寺公園

町田市が管理する芝生広場や池のある3.7haの緑豊かな公園。多摩丘陵の自然と身近に触れ合うことができる場。雑木林を活かして、貴重植物であるカントウカンアオイを計画的に保全するなど、生態系にも配慮した公園。見晴らしの丘からは鶴川駅周辺の市街地が見渡せる。



 真光寺町2-2-1 / WC

16 くりきみち 栗木道


小野路と真光寺と黒川との境界に現在、電源開発西東京変電所がある。黒川に下ると布田道になり、変電所のフェンスに沿って進むと、東京多摩霊園、町田いずみ浄苑があり、真光寺と黒川の境界にある、尾根づたいの道が栗木道である。

17 ふじづか 富士塚

小野路、黒川、真光寺の境界の近くの布田道沿いの高い場所にある。現在は雑木が茂っているが、木がなかった時は、ここから富士山が望めた。節分の時に富士山の真上に太陽が沈むと伝えられている。この土地は私有地のため進入不可。

18 とうこうじ 東光寺（曹洞宗 元別所山 長谷山）

建久4（1193）年源範頼の家臣永井某が範頼の守り本尊薬師瑠璃光如来を守護してこの地に移り、堂を築き奉安した。寛永2（1625）年に舜雄義孝大和尚が別所山東光寺を創立した。幕末の住職は、小島鹿之助の依頼で京都にいた新選組の近藤勇に書簡を届けている。平成2（1990）年に本堂、庫裡が新築され、多摩長谷平和観音が平成21（2009）年に作られた。

 小野路町2907

コラム

亀井坂と四郎兵衛坂

広袴から、能ヶ谷、岡上、奈良、長津田、二俣川にいたる道に鎌倉古道早ノ道から栗木、平尾に向かう坂道があり、これを亀井坂という。源義経の有力な家来の亀井六郎が通ったので、この名がついたといわれている。

四郎兵衛坂は、江戸時代中期の元禄年間に組頭をしていた次郎兵衛が造ったもの。本来は次郎兵衛坂と呼ぶところが、いつしか四郎兵衛坂となってしまった。木が生い茂って昼なお暗い道であったという。

小野路の里山と谷戸田を巡る 日本人の心の原風景を求めて



春の畦道には、スマレ、タンポポ、レンゲなどが一斉に咲き乱れ、小川にはドジョウ、タニシ、ゲンゴロウがいる。夏は、稲がしゅんしゅん伸びる頃、イナゴが跳び、山百合が土手を彩る。秋は、実る稲穂に、赤とんぼが飛び、日本人の心の原風景がまさに眼前に広がる。

① 奈良ばい谷戸



小山田から小野路に抜ける間道沿いに広がる谷戸。元弘3（1333）年新田義貞の鎌倉攻めの軍勢が通ったとき、軍勢へ「者共、ならべ〜」と号令をかけたところから、なまって「奈良ばい谷戸」に転じたというという説もある。町田市やボランティアが里山再生に取り組んでいるエリアで、豊かな自然が体感できるイベントを実施している。

② 浅間神社分岐

進行方向右へ約400m行くと浅間神社がある。



コラム 浅間神社と山狩り

勧請の年代不詳。祭神は木花開耶姫を祀っている。浅間神社一帯は富士の沢と呼ばれる幕府の御林で、5町2反あった。御林は、幕府が必要としたときに、樹木を伐採して使用するものである。浅間神社は、高台にあったことから、ここから富士山が遠望できる。富士浅間領としては、除地田1反8畝、畑4畝余りである。小野路村は小野路川の上流にあり、湧き水によって稲が育っている所で旱魃に悩まされた。このため、祭りは6月1日と6月15日に行い雨が降ると吉としていた。水徳神として、農業上の必要性から祀られたものと考えられる。現在は、6月の第1日曜日に例祭が行われる。常に植林をしてその生育を名主に監視させた。そのため勝手に木を切り出したり下枝を下ろしたりすることは禁



じられていた。享保3（1718）年11月には猪狩役人が小野路村の浅間神社から3日間かけて恩田村まで山狩りを行ったが、獲物は1匹も捕れなかった。同5年4月には、小野路村の奈良ばいから図師村にかけて山狩りを行い鹿1頭を生け捕った。

③ うくじぞう 六地藏



萬松寺の入り口に、数体の道祖神と共に祀られている。通常六地藏は、地獄、餓鬼、修羅、畜生、人間、天上の六道へ化身として現われ衆生を救済する。しかし、1体多く7地藏あるのは、明治初期に廃寺となった円能寺の地藏を移したといわれている。六面体像もあり、その一基で六地藏を表しており、下に石書大乘妙典とあるが、建立年代は不明である。

コラム

ごそんびつ 御尊櫃の車を修理した鍛冶屋

徳川家康の御尊櫃は、日光に移されるときに小野路村を通過した。それは元和3(1617)年3月21日の事だった。小野路村に新しく造られた一里塚を過ぎ、行列の一行が向坂を下ってきたときに、御尊櫃を載せた車の車輪の軸が破損した。このため、行列は進めなくなった。小野路村の人たちは、急いで鍛冶屋を呼んで修理させ、一行は無事に府中御殿に着くことができた。幕府の役人は、小野路村

にたいして、「以後、助郷を免除する」という特権を与えた。しかし、幕末になると、助郷村が疲弊し、小野路村にも助郷の要請がきた。この特権を武器に嘆願と訴訟をした結果、助郷は免除するが、金納するということでけりがついた。(小野路村の伝承より)
※助郷 = 宿駅に常備する人馬が不足したとき、その補充を命じられた郷村

④ ばんしょうじやと 万松寺谷戸

城山の懐深く入り組んだ細長い谷戸。地域に親しまれた萬松寺が谷戸内にあるため、萬松寺谷戸といわれている。復元された水田、湧水を溜める池には幻の水草と言われた「ミズオオバコ」(A絶滅危惧種)が復活し、晩夏に可憐な花を開く。万松寺谷上流部の田の水は、湧き水のため冷たいので、「てび」と呼ばれる水路をつくり、冷たい水を回して温める工夫がされている。谷戸の奥には、小山田城の支城であった小野路城址と、その主郭下には小町井戸と呼ばれる場所がある。



📍 入口にバイオトイレあり

5 おのじんじゃ 小野神社



勧請の年代不詳。小野篁七代目子孫小野孝泰（武蔵国司）が、小野篁を祀って建立したという。小野篁は平安時代初期の漢学者で、百人一首に「わたのはら 八十島かけて漕ぎいでぬと 人には告げよ 海人の釣り舟」と言う和歌がある。学問の神様として崇敬を集めている。小野神社の梵鐘は、正珍という僧が旅人の安全を祈願して寄進を募

り、応永10（1403）年に建立した。以後、小野路宿の「時の鐘」として使われてきたが、文明年間（1475年頃）、扇谷上杉との戦いの際、山内上杉の兵に陣鐘として持ち去られ行方が分らなかった。後年、神奈川県逗子市の海宝院にあることがわかった。県の重要文化財として指定され、海宝院で大事に保存されている。なお、昭和59（1984）年に小野路出身の多摩市東寺方在住の塩沢貞氏が、海宝院の鐘を復元し小野神社に奉納した。毎年、除夜の鐘が撞かれ、小野路の里に静かな鐘の余韻を響かせている。昭和60（1985）年には、小野路神輿保存会によって大神輿の修復がなされ寄進された。



小野路町885

6 おのじいちりづか 小野路一里塚



木曾一里塚から、家康の御尊櫃御成道を迎ると、次の一里塚がこの「小野路一里塚」である。野津田公園西駐車場付近にあり、説明板、道標がある。やはり、榎が植えてあったらしい。御尊櫃通過時小野路村の苦勞に対して、幕府は以降、助郷（江戸時代、街道に設けられた宿で、人馬を提供する課役）を免除したと伝えられている。（P37 コラム参照）

小野路の次の一里塚は「瓜生」で、現在の多摩市永山に当たる。また、木曾の一里塚の厚木寄り、麻溝台地区に一里塚があり「二つ塚」とも呼ばれる一対の塚がある。その先は新戸の一里塚（相模原市南区新戸）で、旧県立新磯高校の近くに一里塚がある。ここを少し下ると座間宿になり、宗仲寺は鷹狩りの時に徳川家康が訪れたというゆかりの寺で、御尊櫃通過の際には休憩したと伝えられている。



野津田町35付近

7 いっぼんすぎこうえん 一本杉公園



小野路の関屋から北上する鎌倉古道は、この一本杉公園近くを通過して府中に向かっている。当時は、大きな一本杉があったそうで、それがこの公園の名の由来にもなっているが、現在はその後の杉の大木がある。広い公園は道路に隔てられて南北に分かれている。北側には一本杉球場とテニスコートがあり、桜が見事であり、スダジイの大木もある。南側には、炭焼き小屋や池のそばに二つの古民家がある。多摩市内から移築復原した旧有山家住宅と旧加藤家住宅は、どちらも農家で、18世紀頃の建物とされている。

📍 多摩市南野2-14 / ☎042-374-9702 / WC

8 せきや き とお 関屋の切り通し

鎌倉古道と布田道との交差した場所で、初めに鎌倉古道があり、後に別所に行く道を作ったときに、山を削ったためこのような切り通しになったと思われる。幽玄な佇まいと土手の根幹に悠久の刻の流れが一時止まったような錯覚に陥る。関屋という地名から連想して、昔ここに関屋の砦があったのではないかとと思われる。



9 おのじじゅく 小野路宿



小野路宿は古くは鎌倉街道上ノ道の宿場で、その長さは約480mある。道の両側には、約20軒ずつ家があり、屋敷の裏は山になっている。小野路川が宿通りに出てきたところが、上宿と下宿の分岐点である。元和3（1617）年には、徳川家康公の櫓を駿河の久能山から日光に移す大行列が通った。幕末には大山道の宿場として栄え、6軒の旅籠があった。現在の中宿バス停は、高札場跡である。文政10（1827）年には小野路村外34ヶ村組合村の親村となった。明治24（1891）年には小野路登記所が開設され、昭和18（1943）年に町田に移転した。

10 おのじじゅくさとやまこうりゅうかん 小野路宿里山交流館

江戸時代に大山街道の宿場町だった小野路宿は、大山阿夫利神社に参拝する「大山詣」の要所として、府中方面からの参拝客で賑わっていたという。平成25（2013）年に開館した小野路宿里山交流館は、当時6軒あった旅籠（はたご）のうち「角屋」を改修したもので、大正末の遺構（角屋は関東大震災で倒壊。その後建てられたものを改修している）。間取りはほぼそのままに、木材など一部を再利用した。飲食や休憩ができる交流スペースのほか、情報・物販コーナーなどがあり、小野路の歴史や自然、文化と触れ合うことができる拠点として開館以降、数多くの人を利用する憩いの場となっている。令和4（2022）年11月に来館者数が30万人を超えた。



小野路産の地粉を100%使用した小野路うどんや、「小野路のお母さん」が作ったホクホクでボリューム満点の里山コロッケ、一口かじると口の中に酒麴の香りが広がる里山まんじゅうなど、地域を感じられるメニューがたくさん。いずれも数に限りがあるので来館者が多い日は売り切れになることも。



 小野路町888-1 / ☎042-860-4835 / WC

コラム

布田道～小野路宿と 甲州街道の布田五宿を結ぶ全長約13km

小野路宿の上宿から、鎌倉古道の関屋を越えて、谷戸道を下り別所に出る。坂を上り富士塚を抜け、黒川の谷戸道を通り汁守神社に出て、現在の鶴川街道に接続する。幕末頃に小野路からは、江戸に行く近道として利用され、冬には小野路で焼いた炭を馬の背に積ん

で上布田宿の炭問屋原惣兵衛まで運んだ。天然理心流の師範近藤勇や、師範代の沖田総司も小島家や橋本家の剣術出稽古にしばしばこの道を利用した。布田五宿は、江戸方面から、国領、下布田、上布田、下石原、上石原である。

お散歩グルメ情報



ピアノカフェ・ショパン

小野路バス停から一筋北の山側に位置するしゃれたギャラリーを兼ねた喫茶店。ウォーキングに疲れた身体に絶好の休息スポット。コーヒー、紅茶、ケーキなど、広いリビングで楽しめる。水・金・土・日の14時半からのピアノ生演奏や、一流のピアニストによる演奏会も企画され、文化スポットになっている。



小野路町4294-1 ☎042-734-1889 年中無休



こじま しりょうかん 小島資料館

文化財



幕末に小野路村外34ヶ村の寄場名主を務めた小島鹿之助は、漢学を修め、新選組の近藤勇や自由民権家の石阪昌孝と深い交友関係があった。近藤勇は天然理心流の師範として、剣術指南に数多く36回も小島家に通ってきた。近藤勇が稽古の際に使用したどくろの稽古着などをはじめ、新

選組時代の書簡も数多く保存されている。また、小島家当主が4代にわたって書き継いだ『小島日記』は天保7（1836）年から大正10（1921）年まで86年間分あり、小島日記研究会によって解読され、小島資料館から出版されている。昭和40（1965）年に天保13（1842）年に建設された茅葺きの名主住宅を改造し、昭和43（1968）年に別棟に資料館を開設した。邸内には、近藤勇と小島鹿之助の胸像がある。



きゅうた まぐん おのじむらめいしゅ こじまけぶんしょ 旧多摩郡小野路村名主 小島家文書

文化財（東京都有形文化財）

小島家は、中世以来の旧家で幕末に小野路村の名主を務めた。近世・近代文書4,488点が残されている。18代から22代までの当主が文人としても活躍したため、その著作も残されている。和漢書籍は、6,000巻に及び、幕末の漢詩人大沼枕山の版木もある。



おのじのうへいたいかんけいしりょう 小野路農兵隊関係資料

文化財（東京都有形文化財）



小野路農兵隊は、治安維持を目的として、慶応2（1866）年7月に結成され、慶応4（1868）年3月に解散した。小野路村の農民を主体に76名の隊員がいた。当時使用した道具類231点がある。鎖着込みや、兜、鎖手袋ほか鉄砲関係のものもある。



小野路町950

家康の櫃が通った道の一里塚を辿る

家康側近天海僧正や老中本多正純ら、1,300人が通行



御尊櫃御成道は、徳川家康の御尊櫃を駿河国久能山から日光東照宮に運んだ道で、由緒ある歴史街道である。天海僧正ほか、三百余騎と徒歩一千人が通行した。現在一部にその面影が残っている。

① 龍像寺 (曹洞宗 淵源山)

文化財



暦応年間(1338~1341)の創建という。木曾集落に檀家が多い。淵辺義博が境川の「龍池」という淵に住んで人々を苦しめていた龍を退治した。龍の体はバラバラになり四方へ飛び散った。頭が落ちたところに、龍頭寺、胴が落ちたところに龍像寺、尾が落ちたところに龍尾寺を建て龍の供養をした。しかし、二寺は廃寺となり、龍像寺のみが現存している。

(参考『さがみはらの地名』) 旗本岡野家の墓があり、相模原市の文化財に指定されている。家康の御尊櫃は、座間、古淵方面から龍像寺の東手前の坂(龍像寺坂)を下って、木曾一里塚へ向かった。

📍 相模原市中央区東淵野辺3-25-1 / WC

コラム

ごそんびつおなりみち 御尊櫃御成道

徳川家康は、駿府(静岡)で元和2(1616)年4月17日に75歳で病死した。遺言では「遺体は駿河国久能山に埋葬し、葬儀は江戸増上寺で営み、位牌を三河国大樹寺に立て、一周忌も過ぎてから下野国日光山に小さい堂を建てて勧請せよ」というものだった。家康は久能山に神として祀られ、朝廷から「東照大権現」の神号と「正一位」が勅許された。家康の御尊櫃を運ぶ一行は、元和3

(1617)年3月15日に久能山を出発し、吉原、三島、箱根、小田原、平塚、府中、仙波(川越)、忍(行田)、佐野、鹿沼を経て、4月4日に日光に着いた。そのため、この経路は後に「御尊櫃御成道」と呼ばれるようになった。木曾から小野路は3月21日に通過した。平塚の中原御殿から府中御殿までの道中の一部で、この道は後に大山道としても利用された。



御尊櫃を担ぐひとたち 『日光東照宮の宝物』 東照社縁起より

④ 福昌寺 (曹洞宗 木曾山)



永禄11 (1568) 年創建。本堂は通りから山門、参道を経由して奥まったところにある。家康の御尊櫃を移送したときに休息所となったと伝えられる。樹齢400年のイチチョウは、御尊櫃の行列を見ていたかもしれない。

📍 木曾西3-3-18

⑤ 秋葉神社

福昌寺の山門脇にある火難除けの神社で、火伏せの神 (火之迦具土神)、秋葉神、火結神を祀る。貞享2 (1685) 年建立。今でも地元の人たちが当番制で管理している。また右隣には「上宿のお地藏様」があるが平成10 (1998) 年に近くの公園から移設された。この地藏尊は延宝元 (1673) 年建立。秋葉神社の櫓の木は、幕末の大火で焼け、中がうろになっているが、勢いは盛んで、春には毎年新芽が出ている。また、そのうろの中は、造形的に興味を引く自然の造りとなっており、これを拝むと子宝に恵まれると言われている。



📍 木曾西3-3-16

コラム 木曾集落と名主飯田家


飯田氏は、系図によると当初信州の飯田に住んでいたのが飯田姓を名乗ったとされる。子孫は天正18 (1590) 年小田原北条氏落城の後、木曾村に来住して以来、幕末には、飯田家は名主を務め豪農としても有名であった。飯田家の屋敷内に、明治初期

に八王子警察の分署が設けられたが、のちに飯田家は全焼し警察分署は原町田に移転した。旧宅跡地は何の痕跡も残っていない。木曾は宿場であったので、柘植屋、笠屋、熊手屋、なすねや (ナス苗屋) などの屋号が残っている。

⑥ でんじゅうじ 伝重寺（浄土宗 浄叡山）



開山は慶長元年（1596）。天正年間（1573～92）に明善比丘の創建説もある。本尊は阿弥陀仏。境内に六地藏あり。左隣にある金毘羅社は、伝重寺の住職が文化5（1808）年に創建したという。


 木曾西5-19-6

⑦ りょうてんじ 築田寺（曹洞宗 東向山）

寛永6（1629）年、築田正勝公発願による禅寺である。以来、寺灯十八代390年を経て今日に至る。しかし、西暦900年代、平貞盛が平将門の乱を鎮めた時、この地でも、合戦があり、築田寺の趣意書には「両軍死者を集めて火葬に附して、東香堂を建立するを、当山初開創とする。」とある。

本堂裏手には広い寺庭があり、龍王ヶ池と名づけられた池がある。池の形は「心」という文字が象られている。水源は裏手の崖地で、鶴見川の源流の一つである。

築田氏の祖先は、織田信長の桶狭間の戦いで功があった。その後、徳川に仕え、木曾村、山崎村等の地頭となった。正勝の子半兵衛直次は隠岐守に任じられた。寺の本堂裏には正勝夫妻の墓、大五輪塔、宝篋印塔など一族の墓がある。旗本の墓石の規模としても立派なものである。

 忠生2-5-33



築田一族の墓



築田寺庭園

8 かまたさか 鎌田坂



鎌田坂の名は、この坂の途中に本山派修験の旧大蔵院鎌田家があったため。御尊櫃御成道は、町田工業高校近くを通り、図師町方面へと急坂を下った鎌田坂に出る。この地に縁切り不動と呼ばれた不動明王を祀った石像があった。結婚式などでは、縁が切れてしまうので、ここを通ることは避けたという。造成工事によって移動し、現在は築田寺に置かれている。右大山、左かまくらとも彫られていて道標を兼ねていた。

コラム

だいぞういんあと 大蔵院跡

鎌田坂の近くに修験で明治元（1868）年廃寺になった白山社別当大蔵院があった。『新編武蔵風土記稿』や『廻国雑記』等に記載があるが、古くは今の芝溝街道を挟んだ図師町半沢地区に白山社と一緒にあり、元和4（1618）年に現在地に移転した。京都天台宗聖護院本

山派の修験寺である。白山社は5石の朱印地を持ち、町田唯一の社領を有するが、大蔵院は白山社別当を務めた。明治維新時にはこの大蔵院は神職となり白山社別当を務めた鎌田大和、環、直暢など名乗り半沢にある白山権現社を新良山神社と名付け、社掌（宮司）となった。

9 くまのじんじや 熊野神社

鶴見川の宮川橋を渡り、芝溝街道を横切った山の中腹に熊野神社がある。明治44（1911）年に稲荷社ほか4社を合祀し、半沢にあった白山権現社（新良山神社）は鎌田家が神職として司祭していたが、大正5（1916）年に合祀している。この神社の勧請には、木曾宿の覚圓坊（箭幹八幡宮の別当）地元の大蔵院、鎌田家も深く関与したという。祭神は伊邪那岐命、伊邪那美命をはじめ、白山姫命、天照大神他合わせて7柱を合祀している。



📍 図師町1867



豆知識

図師の地名の由来

『新編武蔵風土記稿』によると、承久の頃（1200年代）小山田二郎重義がこの地を領したとき、寺を作りたいと申し出た僧に、周りの景観を問うたところ、かの僧が「図

にして示したという。重義が図を見て感銘し、帰依した。この僧を「図師の法印」と呼び、地名になったという。

10 えんぶくじ 圓福寺 (曹洞宗 真峯山)



📍 図師町3301

大泉寺11世聖翁存祝和尚が、寛永2(1625)年に開山。本尊釈迦座像。江戸時代中期に活躍した絵師尾形光琳の弟、乾山(陶工)累代の供養塔ならびに6代乾山と子・乾女(画家)の墓がある。境内には、聖護院別当道興准後の「水なかば沢辺をわくやうす氷」の句碑と、図師ゆかりの世界的に有名な折り紙作家河合豊彰氏の折り紙供養塚がある。

11 かたかごの森^{もり}

毎年4月上旬、カタクリの開花期のみ開園。クヌギ、コナラ、ヤマザクラの雑木林で構成された緑地で、面積は約1ha。市内では大変珍しくなったカタクリの群生を森の名前にしている。カタクリは、万葉の昔、かたかご(堅香子)といわれ、人に親しまれてきた植物で、この森に自生しており、その名前に由している。



📍 山崎町1706-1 / ☎042-724-4399

12 みが じぞうそん 身代わり地蔵尊



かたかごの森からさらに北に向い、忠生公園大橋手前の民家の間の道を行くと、急な下り坂となり、下りたところにあるのが、このお地蔵様である。天明3(1783)年の大飢饉の際、少ない食物を若い人々に回し、自分達は餓死した長老達を供養するために後世の人が建てたといわれている。近年、当時の地蔵が盗まれたため、地元の人たちが新しく奉置した。

13 やがらはちまんぐう 箭幹八幡宮 (矢部八幡)



箭幹八幡宮は小山田氏領地17郷の総鎮守。本殿は江戸時代後期、拝殿は大正5（1916）年に再築した。御尊櫃御成道からは離れるが、この地域一帯の住民を氏子としている。康平5（1062）年、源八幡太郎義家が奥州遠征（安倍貞任討伐）の帰途、木曾宿で病にかかり、八幡宮に祈願したところ平癒。義家は神意に

報いたいと屋根に羽矢を挿した。また、境内には矢竹が繁茂していたところから矢柄八幡宮ともいわれていた。そのため、この地域は「矢部」といわれている。また後の、保元・平治の乱（1156～1159年）の際、源義賢と源（悪源太）義平が凶師原近辺で合戦、八幡宮の化身が現れ和睦したという。このときの甲冑、矢の根などを埋めたところが、「根岸」という。矢部も根岸も今も町名で残っている。また忠生3丁目の兜塚公園には、このときの武具を集めて塚としたと伝えられている塚がある。今は市域の戦争碑、忠魂碑等が集められて慰霊公園となっている。

やがら はちまんぐうずいしんもん 箭幹八幡宮隨身門 文化財

隨身門は、神社外郭の門で武官姿の隨身像を左右に安置している門をいう。桁行3間（5.4m）、梁行2間（3.6m）の入り母屋造りで、製作年代は、18世紀前半頃と思われる。



やべ はちまんぐうししまい 矢部八幡宮獅子舞 文化財



元龜・天正（1570～）年代から行なわれていたと伝えられる。木曾や、矢部の例祭や臨時の祭礼などで行なわれた。舞は、「道行」と「御庭舞」にわかれている。また、八幡宮木曾町祭典の神輿は今でも獅子舞が先導し、木曾町の神輿街道を巡行する。市指定無形民俗文化財。

📍 矢部町2666

14 ただ お こう えん し ぜん かん ちゅうばいえん
忠生公園・がにやら自然館 (蠟梅苑)

木曾町の平坦な台地から東に少し行くと、多摩丘陵の谷戸地になる。忠生公園は起伏を利用した自然公園で、面積は約8haである。水と緑の谷戸では野鳥、昆虫、植物の観察ができる。同館の周辺にはたくさんの蠟梅が植えられていて、12月から2月にかけて黄色の花が芳香を放っている。また、がにやら自然観察館の「がにやら」とは「カニのいる谷戸」という意味の地元の言い方で、そこから名づけられたものである。かつては、「もくたがに」という大形のカニが獲れ、食用になった。




山崎町1804-1 / ☎042-792-1326

コラム ただ お い せ き
忠生遺跡

忠生遺跡は、木曾、根岸、矢部町の3町に跨る高密度の複合遺跡である。市内最大規模の旧石器、縄文、平安時代の集落跡、古墳時代終末の横穴墓群、中近世の墓跡などが発掘され、膨大な石器、土器類をはじめ、鉄製大刀、鉄鏃、金銅製耳飾り、ガラス玉、

墨文字のある墨書土器や仏具の浄瓶（灰釉陶器）などが出土した。とりわけ、100点以上数える縄文土偶や長さ1.8m超、重さ約60kgの彫刻文付大石棒は全国から注目されている。

お散歩グルメ情報

 **浅沼ブルーベリー農園**



忠生公園通りの広い道を横切るとすぐ右にある農家で、案内はない。新種や

改良種のブルーベリーを栽培している。ほとんどを鶴川などのジャム工房や洋菓子店に納めているが、予約すれば摘み取りもできる。6月から9月上旬まで。

木曾西5-14 ☎080-1149-9630

 **炭焼きハンバーグ あらかると**



炭焼きハンバーグをメインとした隠れ家的なレストランで、平成21(2009)年には

「町田私の好きなお店大賞」を受賞。毎日シェフが手作業で丁寧に肉のスジを取りのぞき、つなぎなしで作る国産牛100%の炭焼きハンバーグは絶品。肉汁たっぷりと評判。

忠生2-2-32 ☎042-792-4002
 月曜・火曜定休

薬師池公園と鎌倉古道を散策する お花、公園と周辺を楽しむ



自由民権資料館で自由民権運動に活躍した当時の人達に想いを馳せ、その後、今なお静かに残っている鎌倉古道を歩く。民権の森では「石阪昌孝の墓」「自由民権の碑」で当時を偲んだ後、町田市を代表とする景勝地、薬師池公園に向かうのがおすすめ。

07 薬師池講演と鎌倉古道を散策する

① まちだ しりつじゆうみんけん しりょうかん 町田市立自由民権資料館



明治時代前半から半ばにかけて、自由民権運動を柱に据えた資料館として、市域を中心に、多摩・神奈川の民権運動関係資料を収集保管し、常設展や企画展を行っている。民権期の文武道場「凌霜館」跡地を地主である村野常右衛門の子孫が提供、町田市が資料館を建てた。閲覧室、休憩コーナーの

図書は自由に閲覧できる。市域の古文書等も寄託収蔵しており、郷土の歴史を担う貴重な施設である。令和4（2022）年11月に常設展示をリニューアル。翌年2月からは町田市のこれまでの「くらし」の歴史について学べる「町田の歴史—時代でたどる人びとのくらし—」展を公開している。入場無料。

📍 野津田町897 / ☎042-734-4508 / WC

② のうぐかん ふるさと農具館

農家の人々が使ってきた農機具や生活道具を展示し、その仕事や暮らしぶりを紹介している。毎日地元で採れた新鮮な野菜を販売している。月1回、七国山の畑でとれた菜種から油をしぼっていて、その様子を見学し、購入することができる。



📍 野津田町2288 / ☎042-736-8380 / WC

③ いしごかまさたか はか 石坂昌孝の墓



町田が生んだ偉大な政治家で、多摩及び神奈川県自由民権運動指導者の巨魁。町田ぼたん園内には、石坂昌孝の屋敷があった。衆議院議員・群馬県知事を歴任したが、



典型的な井戸堀政治家で、屋敷の裏山に墓が建つ。明治40（1907）年1月に67歳で没した。地元では「正五位の昌孝さん」と愛唱される。法名は「雄鎮院殿洪範道昌居士」。

④ ななくにやま 七国山ファーマーズセンター

町田市により開設された市民農園の拠点施設で、散策に訪れる人々の休憩の場となっている。秋のコモスは見事。



📍 野津田町3497-1 / ☎042-736-3615 / WC

⑤ まちだ えん 町田ぼたん園



330種、1,700株のボタン、60種600株のシャクヤクが植えられている。ゴールデンウィーク前後には、色鮮やかな大輪の花が鑑賞できる（この期間は有料）。ボタンの開花時期以外は、無料開園している。「民権の森」と言われる周辺の林1万9千㎡は、平成10

(1998)年に東京都緑地保全地域に指定され、クヌギ、コナラを主体とし、スギ、ヒノキ、モウソウ竹がある。ぼたん園内には自由民権運動の指導者であった石阪昌孝の屋敷跡がある。

📍 野津田町2274-1 / ☎042-736-4477 / WC

⑥ のぶたじんじや 野津田神社

享保2(1717)年には、五社明神と称していたことが「野津田村年代記」に記されている。明治21(1888)年には御霊神社と称していたが、明治42(1909)年には上ノ原の春日神社、本村の幸山神社、並木の伊勢神社、川島の御嶽神社の四社を合祀して、野津田神社と社名を変更した。現社殿は大正15(1926)年10月2日に造営された。



。拝殿前には文久2(1862)年に石阪吉利(のちに昌孝)が建てた石灯籠がある。例祭日は8月27日。野津田神社の幟の揮毫は、石阪昌孝が明治38(1905)年8月に五升の酒を飲んで書き上げたという。「閩郷威霊を仰ぎ、万家康寧を祝す」とあり、世の中が穏やかで平和であることを祈っている。現在は、自由民権資料館に保管されている。

📍 野津田町2319 / WC

町田と自由民権運動

自由民権運動とは

自由民権運動は、土佐の板垣退助が明治7（1874）年1月に、民撰議員設立建白書を明治政府に提出したことに始まる。新たに国会をつくり、国民の代表の意見を聞きながら政治を行なうべきとの要求であった。のちに、地租軽減と不平等条約の改正が加わる。以後、10年あまりにわたって自由民権運動は全国的に展開された。

町田市域では、野津田の石阪昌孝、村野常右衛門、小山田の薄井盛恭、若林有信、小川の細野喜代四郎、相原の青木正太郎ほか多くの人が自由民権運動に参加した。14年1月には原町田の吉田屋で武相懇親会という大政治集會が開かれ、これを契機に石阪らは融貫社という政治結社を結成した。石阪らは15年7月に自由党に加盟した。黨員には原町田の渋谷三郎がいた。渋谷は、「たけくらべ」や「にごりえ」などで有名な樋口一葉の許婚になり、のちに秋田県知事になった。村野常右衛門は16年に野津田村に文武道場「凌霄館」（現・町田市自由民権資料館の地）を建てて剣術や民権思想の学習を行なった。

石阪は、自由党の三多摩の重鎮として活躍したが、政府は集會条例、新聞紙条例、出版条例などをつくり、演説会や討論会の妨害をした。この

ため、運動は急進化し村野は大阪事件に参画した。

武相困民党と自由民権運動

明治15（1882）年頃から松方デフレ政策によって物価が下落し、さらに増税されたために多額の負債をかかえた農民が続出した。17年から18年にかけて町田市域も困民党が組織され蜂起し、銀行や高利貸と負債の軽減を要求して集団交渉を行った。石阪、細野、薄井らは、仲裁に努力したが、困民党への民権家の対応は複雑多様だった。18年1月に困民たちは示威行動にでて横浜に向けて押し出したが、瀬谷で警官に逮捕され、これを契機に困民党は一斉検挙され壊滅した。時を経て22年に憲法発布、23年に国会は開設され、石阪は第1回衆議院選挙に当選した。

北村透谷と石阪美那子

自由民権運動に参加した文学者北村透谷は、明治18（1885）年の夏、三多摩民権運動の最高指導者石阪昌孝の長女美那子と、石阪邸で初めて出会った。美那子は民権壮士と異なった思索型の青年に深い印象を受けた。2人は2年後に東京で再会し、21年に周囲の反対を押し切って結婚した。透谷は、日本の近代文学を代表する評論家で詩人でもあった。しかし、ノイローゼとなって27年5

月に25歳という若さで自殺した。透谷と美那子の生活については、親友であった島崎藤村が『春』という小説に書いている。美那子は、18年には、横浜の共立女学校で学び、キリスト教に入信した。美那子は、32年6月に一人娘の英子を残して渡米し米国の大学を卒業した。40年2月21日に8年8ヶ月ぶりに帰国したとき父昌孝は、井戸堀政治家となって、家屋敷も失い1ヶ月前に67歳で亡くなっていた。美那子は、英語の教師として後半生

を過ごし、昭和17年に76歳で亡くなった。美那子の教え子は、「本場仕込みの発音はすばらしくきれいで、英会話は米人



北村透谷 美那子

なみだった。生一本で、ジョークもユーモアもなく、授業中ピリッと緊張せざるをえなかった」と述べている。

自由民権の鐘

多摩を含めた当時の神奈川県内の自由民権運動を指導した石阪昌孝(野津田)をはじめとして、村野常右衛門(野津田)、青木正太郎(相原)、細野喜代四郎(小川)、若林高之亮(下小山田)などの魅力あふれる民権家を生み、全国でも有数の豪農民権運動を展開した。後継の若林美之助(下小山田)や石阪公歴(野津田)ら青年たちも、民権の理想に燃えて活動をくりひろげた。この活気に満ちた時代の創造力と、情熱にあふれた青年たちの奮闘と努力をあらためて現代に呼びさまし、そして未来に伝えるために、薬師池公園内に自由民権の鐘を建立した。製作者は三橋國民氏。

お散歩グルメ情報



讃岐うどん かいと (野津田店)



本場の讃岐うどんからオリジナル創作うどんまで楽しめるうどん専門店。古民家をイメージした店内で、岩手県から移築した材料、装飾が、温かさ、懐かしさを呼び起こす。味はもちろん、この雰囲気を楽しみに遠方から多くの人々が来店する。

野津田町2413-1 ☎042-737-3310
第2火曜の夜の部定休



やくし茶屋




薬師池の前にあり、古民家風の建物で30年以上続く茶屋。絶景を眺めながらクリームあんみつやおしろこ、薬師だんごなど、昔ながらの甘味や、いそべ巻き、焼きおにぎりといった軽食を味わえる。

野津田町3270(薬師池公園内)☎非公開
不定休

7 自由民権の碑



三多摩自由民権の重鎮、石坂昌孝の屋敷があった場所である。明治の文学者北村透谷と、石坂昌孝の長女美那子との出会いの地でもある。このときの出会いが、2人の熱烈な恋愛に発展した。自由民権運動百年の記念事業として、昭和60（1985）年に建碑。揮毫は、民権研究者の色川大吉氏。

 町田ぼたん園内

8 薬師池公園

町田を代表する景勝地であり、「新東京百景」「東京都指定名勝」「日本の歴史公園百選」にも選ばれている。四季折々に花を楽しむ公園として有名で、常に多くの人で賑わっている。面積は約10.2ha。ここは、野津田町の南端の谷戸にあり、池を中心に梅林や菖蒲田、萬葉草花苑、大賀蓮田、自由民権の鐘がある。季節ごとの花鳥が楽しめ、園内散策や絵、写真などで来訪者に憩いの場を提供している。薬師池は、古くは水田の灌漑用水を目的として造られた溜池である。別名福王寺池とも呼ばれていた。花の名所としても知られ梅、桜、藤、菖蒲、椿、紫陽花など四季折々の花を楽しむことができる。秋には紅葉まつりが開かれ、園内がライトアップされる。公園内のお食事処としては、やくし茶屋での和菓子や、やくし売店でのうどん・おにぎり、おでんなどの軽食がある。



 野津田町3270 / ☎042-724-4399 / WC

9 町田市フォトサロン



薬師池公園の北側にあり、企画展示や写真愛好家の作品発表の場として、広く写真芸術を紹介している。また、撮影会や写真に関する講座などのイベントも行なわれている。

 野津田町3272 / ☎042-736-8281 / WC

10 のぶたやくしどう 野津田薬師堂

天平年間（729～749）に行基によって開基されたと伝えられる町田市で最古の寺という。現存する本堂は明治16（1883）年に再建され、野津田の本村にある華厳院の一部で普光山福王寺（通称薬師堂）と呼ばれている。町田市名木100選のイチヨウの大木がある。



文化財

本尊 薬師如来坐像

像高70.6cmの樺の一木造で、平安後期、11世紀頃の作と考えられている。町田市の木造仏としては、一番古い仏像である。この本尊は秘仏で12年に一度寅年の4月から5月に拝観できる。昭和62（1987）年文化財に指定。



📍 野津田町3224

11 きゅうなが い け じゅうたく 旧永井家住宅

入母屋造りで、間取りは広間型、桁行8間1尺5寸、梁間4間、天井は竹スノコ、床は広間、部屋は竹スノコ、デ工は板床。典型的な多摩丘陵の民家である。永井家は小野路瓜生（現多摩市）で代々養蚕を営んでいた。多摩ニュータウンの建設に伴い町田市に寄贈され、昭和50（1975）年に薬師池公園に移築された。

文化財（国重要文化財）



12 きゅうおぎ の け じゅうたく 旧荻野家住宅



文化財（東京都有形文化財）


📍 野津田町3270

荻野家は笠間藩の医家の出で、三輪に移り幕末まで医家であった。荻野家より町田市に寄贈され、昭和49（1974）年に三輪町より薬師池公園に移築復原された。茅葺入母屋屋根のこの家は桁行6間2尺、梁行4間半の大きさで、後方に杉皮葺の風呂場と便所が突き出ている。また軒は30cmほど深く出た造りとなっている。

13 にしえん 西園 (ウェルカムゲート)

令和2（2020）年4月オープン。来園者が4つのアクション「Nature（自然を楽しむ）」「Eat（おいしく食べる）」「Story（思い出を作る）」「Talk（そして話す）」を通じて「四季を感じ、四季を楽しむことができる居心地の良い場所を創出する」がコンセプト。インフォメーションに併設する直売所には町田産農産物や町田市名産品、市と交流のある自治体の特産物が並ぶ。カフェ・レストランでは、町田産の牛乳を使った薬師ソフトクリームをはじめ薬師バーガーなど、地場食材を使ったメニューが楽しめる。また、3面を緑に囲まれ、高い天井でゆっくりとした時間を過ごすことができるライブラリー機能を備えた休憩所や、ヨガやフィットネスなどの運動教室、四季彩の木の素材を使ったクラフト教室や旬の食材を使った料理教室など様々なイベントに活用できるラボ・体験工房など、魅力的な施設が西園を彩っている。




 本町田3105 / ☎042-851-8942 / WC

14 まちだえん 町田リス園




約2,500㎡の広場には、約200匹のタイワンリスやシマリスが放し飼いにされ、エサであるヒマワリの種を直接あげることができる。そのほか、モルモットやウサギ、カメなど可愛い動物とのふれあいもでき、ファミリーで楽しめる。

 薬師台1-733-1 / ☎042-734-1001 / 火曜定休

15 まちだえん 町田えびね苑

平成元（1989）年に開園、町田で自生するジエビネに加え、育成したキエビネ、タカネエビネなど5000株のエビネの花が楽しめる。4月末から5月上旬が見頃（有料）。6月に咲く紫陽花も見どころである。

 本町田3129-5 / ☎042-724-4399



野津田公園は約40haあり、陸上競技場、野球場、スポーツに最適な多目的広場、テニスコートがある。北側には広い雑木林の中を鎌倉古道が通っている。自由民権運動に活躍した野津田出身の村野常右衛門生家が移築・公開されており、町田市有形文化財に指定されている。陸



上競技場はネーミングライツ契約により、令和2(2020)年1月から「町田GIONスタジアム」と命名。町田のサッカーチーム「FC町田ゼルビア」のホームの試合が行なわれる。



ひろば ばら広場

市立野津田公園ばら広場は、令和3(2021)年4月1日から北口エリアに移設オープンしている。園路等含めて約4700平方メートル(植栽面積約3300平方メートル)の敷地に元の広場から移植した447株283種と新植976株164種が咲き誇り、春と秋の見頃シーズンには色とりどりに咲くバラを觀賞しに大勢の来園者が訪れる。



野津田町2035 / ☎042-735-4511 / WC

PICK UP ▶▶▶

FC 町田ゼルビア

町田市ホームタウンチームのFC町田ゼルビアは日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)に加盟するプロサッカークラブ。




「ゼルビア」は、町田市の樹であるケヤキの英語名「ZELKOVA(ゼルコヴァ)」と町田市の花である「SALVIA(サルビア)」を合わせた造語。ZELVIAの「Z」とMACHIDAの「M」がモチーフされたエンブレムには、3本のラインが描かれ、「市民」「行政」「チーム」の三位一体というクラブの基本姿勢を表現している。

野津田公園内にある町田GIONスタジアム(町田市立陸上競技場)がホームスタジアム。令和3(2021)年5月にはバックスタンドを改築し、J1基準を満たす15,320人が収容可能となった。

17 けごんいん 華嚴院 (真言宗高野山派 普光山 明王寺)



創立年代不詳。もとは福王寺といい、室町末期に衰退したとき、僧興満(天正4(1576)年没)がその跡地に結ばれた明王寺の廃跡である現地に移して再興したという。本尊は木造大日如来、明王寺本尊の不動明王も安置されている。明治4(1871)年には、小野郷学の教場となった。野津田公園「上ノ原広場」脇の山林から、華嚴院坂を下り、地神塔(もと高札場)が立つ芝溝街道を横切り、鶴見川の丸山橋に向かう。これが鎌倉古道上ノ道である。華嚴院坂の道の脇道に沿って、鎌倉街道の跡といわれる貴重な掘割遺跡が残っている。

 野津田町608

コラム

むらの つね う え もん 村野常右衛門

安政6(1859)年に野津田村に生まれた。明治2(1869)年に父が亡くなり、11歳で戸主となった。村野家は養蚕や水車業を営み、野津田村では、石阪昌孝家に次ぐ資産家だった。明治10(1877)年には、田、畑、山林




などの合計15町4反余を所有していた。横浜の真下晩菘の書生となり、後に藤沢の小笠原東陽の耕余塾に学んだ。21歳で野津田村戸長

となり、石阪の勧めにより自由党员となり、自由民権運動家として活躍した。のち、県会議員補欠選挙に当選し、廃娼建白書起草委員として尽力した。明治30(1897)年に新自由党結成の参謀を務め三多摩士士の組織化を図った。石阪昌孝の引退後は森久保作蔵と組み、村野・森久保時代をつくった。明治31(1898)年に衆議院選挙で初当選し、大正9(1920)年まで、8期連続当選した。憲政党から立憲政友会結成に参画し、大正2~3年に政友会幹事長を勤めた。9年の選挙で落選し、後に貴族院議員に勅任された。実業面では、横浜倉庫社長を務め、小田急電鉄敷設など地元の産業発展に貢献し、昭和2(1927)年に69歳で没した。

18 かまくら こうどう ぶんぎ きてん 鎌倉古道分岐点

竹やぶを境に上ノ道と古代東海道(推定)に分岐している。上ノ道には深い薬研堀(深い谷)状の道が残っている。

 野津田町608



19 伝鎌倉井戸

でん かま くら い ど

文化財

鎌倉古道の峠路の右側にあり、町田市の旧跡になっている。一説には新田義貞が鎌倉攻めを行った際、行軍途中でこの地に井戸を掘り、軍馬に水を与えたものだと伝えられている。



山崎町1050-3付近

20 町田ダリア園

まち だ えん



昭和60（1985）年に日本一のダリア園である山形県川西町のダリア園から球根の寄付を受けるなどの協力を受け開設された。約15,000㎡の広大な園内には、500種、4,000株のダリアが鮮やかな色で咲き誇る。花色、花型、大きさ、草丈、葉型、葉色などに多彩なバリエーションのダリアが見られる。

本園では、ダリア独特の花色である二色咲き、絞り咲き、ブレンド（ぼかし）など美しい品種や花径30cmを超える巨大輪などが楽しめる。6月下旬から11月上旬が開園期間。それ以外の期間でも草花販売と休憩所は営業している。

山崎町1213-1 / ☎042-722-0538 / WC

コラム

大賀ハスと町田市～圓林寺、薬師池公園 ハス田、大賀藕絲館～

故大賀一郎博士は、昭和26（1951）年千葉県検見川遺跡の泥炭層から丸木舟とともに蓮の実3個を発見した。その後シカゴ大学原子核研究所の分析で2,000年余前のものと証明された。そのうち1個だけ発芽に成功し、大賀博士（当時、府中市在住）と縁故のあった町田市圓林寺（P107）に株分けされ、昭和40（1965）年8月に開花した。圓林寺が蓮寺といわれる所以である。そこから更に薬師池公園に根分けされ、現在では見事なハス田となっている。大賀ハス（2千年ハスともいう

は、7月中旬から8月中旬にピンク色の大輪の花を咲かせ、優雅で美しい。更に、町田市は大賀博士の功績と情熱を称え、「大賀藕絲館」（下小山田町3267）を建てた。ここは、障がいをもつ青年たちの通所施設で、ハスの茎や花託、実を使ったお手玉や香袋、蓮座、藕絲織、紙製品などを製造し販売しており、町田のお土産ともなっている。また、蛸八のはすの実最中は丸粒のはすの実が入った和菓子でまだ名産品となっている。このように、町田市は大賀ハスと深い縁があると言えるだろう。

21

七国山緑地に残る「上ノ道」



七国山緑地の西側にひっそりと残された古道跡。静かで緑の深い道があり、歩いて気持ち良い道が続く。特に春から初夏にかけてはウグイスの声が気持ちを和ませてくれ、夏にはひんやりとした空気が心地良く、秋には紅葉が目を楽しませてくれる。時代を超えた空間が広がり、森林浴には絶好の小径である。

22

七国山

七国山緑地保全地域として、昭和50（1975）年に東京都緑地保全地域に指定された。約10ha。七国山は標高128mの山で、7つの国（武蔵・相模・甲斐・駿河・伊豆・上野・下野）を見渡せたことから「七国山」と呼ばれたという。



コラム

ほうじょううじてるしゅいんじょう

北条氏照朱印状（河井家所蔵）

河井家は、野津田村の開発名主で幕末まで名主を務め、多くの地方文書を所蔵している。右の2通の朱印状は、平成22（2010）年市の有形文化財に指定された。



北条氏照朱印状

永禄5（1562）年（推定）7月5日野津田郷の百姓の離村に対して、年貢免除と引きかえに、離村した百姓の召し返しと田地開発を命じたもの。

北条氏照朱印状

永禄8（1565）年（推定）3月20日野津田郷の新堰開削を許可したもので、鎧塚と考えられる。近くには、兜を埋めたと伝えられる「兜塚」があった。新堰を作ってから、田が増え米の収穫高が大きく増えた。（鎧塚跡はP51 地図参照）

文化財

本町田の歴史を旅する

今なお古街道の雰囲気が残る道を歩く



江戸時代以前、本町田地域は町田村の中心地であった。中世の鎌倉古道や井出の沢古戦場等の史跡が残っている歴史豊かな地で、往時を偲ぶことができる。天神社のある南大谷では江戸時代には珍しい女流俳人の五十嵐浜藻（小林一茶と交流があった）を輩出している文化の地である。これらの史跡を巡りながら町田の文化施設と触れ合おう。

① ぜっしょうたいち むら 舌状台地からひなた村へ

山崎団地の給水塔脇から本町田中学校を右に見て細い道を進む。やがて、左に進む成瀬ルートと、右に進む本町田ルートの分岐点が見えてくる。これより先が井出の沢方面に向かって人の舌のように突き出た台地に出る左のルートの住宅道を下りると、ひなた村のある鎌倉街道の府中町田線に出る。街道を右に向かい、「ひなた村入口」の前を通る細い道が古街道の面影を残し、宏善寺、養運寺へと続いている。



② まちだし そうぞう むら 町田市こども創造キャンパス ひなた村

町田市のほぼ中心に位置する緑豊かな小高い丘（標高105.8m）には、広場やレクリエーションルーム・カリヨンホール・屋外炊事場などがあり、青少年団体の活動の場として利用され、一般貸出も行っている。イベントも多数行っており、アウトドアクッキングや自然菜園などの野外体験、工作や陶芸などの創作体験などさまざまなことに挑戦できる子どもたちのための施設。



📍 本町田2863 / ☎042-722-5736 / WC

③ よううんじ じょうどしゅうひいそくざん 養運寺（浄土宗 鷄足山）

文化財

開山は、足利将軍義昭時代の永禄10（1567）年と伝えられる。室町時代の彫刻様式の阿弥陀三尊像は、市指定有形文化財。中尊像は定印の阿弥陀如来坐像で、両脇侍像は来迎形の三尊である。本堂は文政6（1823）年の建立である。また武相卯歳観音霊場で、12年に一度卯歳に開扉される。境



内には、徳富蘇峰の詩を刻む「蘇峰の鏡」や「かがりび短歌会」を主催した下村照路の歌碑がある。境内左手には町田市名木100選ムクロジがある。

📍 本町田3654


4 すがわらじんじゃ 菅原神社



室町期の永享年間（1429-41）近郷の大沢氏は、天神像を井出の沢の山上に奉安した。この天神像は、大沢氏の先祖が鎌倉期の元応年間（1319～1321）に京都北野天満宮へ詣でた折に得た像だった。江戸期初頭の寛永7（1630）年、その子孫・大沢玄蕃は新たに渡唐の天神像を刻ませてここに奉安し、この地を寄

進して本町田の鎮守として菅原神社が建立された。町田名木100選のもみの木は、枯渇伐採されたが、サカキの木がある。このサカキは、昭和3（1928）年菅原神社の遷宮式が執り行われた際、これを記念して土地の古老栗田喜太郎氏が寄贈したものという。春は桜の名所として知られており、秋はイチョウのじゅうたんができる。町田天満宮（P73）、南大谷天神社（P66）と並んで町田三天神のひとつである。




 本町田802

5 いて さわ こ せんじょうあと 井出の沢古戦場跡

都の旧跡、大正15（1926）年指定。菅原神社の境内裏に「史蹟井手の澤」の碑がある。鎌倉古道は、府中からここまでの道は多摩丘陵の起伏があるが、ここから鎌倉までは平坦な道となる。建武2（1335）年、足利尊氏の弟直義は、信州から一路南下した北条時行の軍をこの地で迎撃し激しく戦った。中先代の乱と呼ばれている。中でもこの地、井出の沢は湧き水が豊富で鎌倉古道を旅する人たちの憩いの場であった。



 本町田（菅原神社境内裏）

文化財

コラム 本町田と原町田

町田村の秣場を開拓してできた集落は、家数が増えたため天正10（1582）年に独立することになった。村名は、原町田村となり、旧町田村は、「本」の字を加えて、本町田村となった。しかし秣場の土地は痩せており、生活が

苦しかったため、本町田で開催されていた「二・七の市」を分けてもらい、天正15（1587）年に原町田で「二の市」を開設した。これが、原町田村の起りである。

⑥ いがらしはまも ほか 五十嵐浜藻の墓（墓所は非公開）



五十嵐浜藻（1772-1848）は、江戸時代では珍しい女流俳人で、多摩郡大谷村生まれ。祖父・祇室や父・梅夫の影響で俳諧をはじめ、俳壇の巨匠・夏目成美や小林一茶と交流をもった。一茶は、浜藻の印象を「門口や先づ愛敬のこぼれ梅」と詠んでいる。浜藻の作品には女性だけの連句集『八重山吹』が、父・梅夫には連句集『草神楽』がある。

📍 南大谷1408

⑦ みなみおお や てん じん じや 南大谷天神社

文化財

旧大谷村は、旗本久留氏の知行地で、正保2（1645）年、五十嵐次郎左衛門が島山屋法春に御神体像をつくらせ、天満宮を鎮守として奉安した。拜殿は入母屋造り、本殿は一間社流造りで市指定有形文化財になっている。春は桜の名所としても知られている。

📍 南大谷451



⑧ ほんまち だい せき 本町田遺跡

文化財



恩田川流域の丘陵頂部にある縄文時代と弥生時代の集落跡（都史跡）。今から約5,500年前の縄文時代前期の竪穴住居跡4軒、約2,000年前の弥生時代中期の竪穴住居跡7軒が見つかった。縄文と弥生の住居各1軒を復元し、公園として一般公開している。



📍 本町田3455

9 おんだがわゆうほどう 恩田川遊歩道




南大谷交差点の桜橋から河川沿いに上流へ歩くと本町田団地があり、稲荷坂橋にでる。右手50mほどに河川と平行に道路が走っているのが、かつての鎌倉古道である。ここから1kmほど先に薬師池公園とえびね苑があり、これらの麓より鶴見川の支流である恩田川源流の湧水がみられる。

10 かないはちまんじんじゃ 金井八幡神社



旧金井村の鎮守として、古くからこの地域の人々の信仰を集めている。『新編武蔵風土記稿』にも記載されており、室町時代初期には存在していたと思われ、400有余年の歴史を持つ。神体は応神天皇で享保11(1726)年仏師佐野木丞の作。現社殿、神楽殿は境内の老松を使って昭和16(1941)年に再建された。古獅子頭3体も社宝として伝わっている。寛延4(1751)年に完成された参道の石段を登ると、パワースポットを思わせる雰囲気となる。本殿裏には、「叶い石」(願いかなう石)として白い小石に願いごとを書き、願いがかなえば本殿裏に返すという縁起の石とそれを入れる小袋が置いてある。

 金井町2686

コラム

金井獅子舞

文化財

金井村の名主神蔵太兵衛が享保6(1721)年に、民生の安定を図るため、獅子舞を鎮守の八幡神社に奉納した。以来、現在まで伝承されてきたもので、形式も町田市の近郷をも含めてもっとも整った獅子舞の一つとされている。市無形民俗文化財。



自然と歴史が響き合う小山田の里

古城址にみる歴史と、文学の里を体感しよう



鎌倉幕府の有力御家人の小山田氏は、小山田に本拠地を構えた。その地に造られた大泉寺は、市内指折りの古刹である。小山田はその昔、文人達が行き交う文化の発信地だった。小山田の地からは、歴史と懐かしい風景が蘇ってくる。それが小山田歩き醍醐味かもしれない。



① おやま だいごう いせき 小山田1号遺跡

文化財



鎌倉から室町時代にかけて武士階級が使った屋敷跡。小山田団地造成前の発掘調査で発見された。崖面を切り崩し、ここに特大の竪穴遺構と掘立柱建物を構築した。特大の竪穴遺構からは、宋銭、天目茶碗が見つかっており、館、集会場、倉庫などの用途が考えられている。昭和60（1985）年3月に東京都史跡に指定。

📍 小山田桜台2-16-32

② しんめいじんじや 神明神社

祭神は天照大神。時期は不明だが、小山田二郎重義が伊勢の五十鈴川に似た所だとして、田中谷戸に祭神を勧請したという。明治7（1874）年になり「霧のたちのぼる所」だとし現在地に移った。この場所はもともと山王社（日枝神社）であったが、近隣の六社も合祀され神明神社の神名となった。



📍 上小山田町3030

③ ようじゅいん 養樹院（曹洞宗 富亀山）

文化財



慶長19（1614）年に、大泉寺11世聖翁存祝和尚の手で大泉寺の末寺として再興された。本尊は釈迦如来。明治6年に「有隣学舎」もここで開校した。多くの石仏がある寺としても知られる。また境内には圓通庵と称する観音堂があり、准胝観音像は武相卯歳霊場36番札所である。なお、中村汀女筆の句碑「松山も榛の木山も 春の声」がある。

📍 上小山田町2536

4 比丘尼の墓と六部塚

竹藪のそばに小さな石碑がひとつ。碑面には、「寛保2年六十六部釈西順比丘尼」「嘉永3年12月再建信州伊那郡阿武隈村 俗名片桐勘四郎」と刻まれている。伝承によると、比丘尼は赤ん坊を抱いて旅していた信州の人で、ある日、この地で、赤ん坊の身代わりの阿弥陀如来像を抱いて死んでいた。



100年余後、祖先の比丘尼の足跡をたどっていた六部の片桐勘四郎が村民から比丘尼がもっていた阿弥陀如来像を渡されたが、比丘尼の墓前で息絶えてしまった。時代を越えて祖先を慕う美談に対して村民たちが供養碑を建てた。(比丘尼：20歳以上の尼、六部：法華経を66回写経して66カ所の霊場に納めて歩いた巡礼者)

📍 上小山田町

5 正山寺 (浄土真宗東本願寺派 野中山)

文化財



📍 上小山田町1504

僧祐玄が元和元(1615)年に開山。本尊は阿弥陀如来。祐玄は永禄12(1569)年、武田信玄の小田原侵入に加担したため、北条氏から小山の下馬場にあった寺を追われ、現地に移ったと伝えられている。京都西本願寺末寺で、貞享3(1686)年に故あって東本願寺に転派したという。石柱には野中山と正山寺が振り分けて彫られ、43段の石段をのぼった所に寺院がある。

コラム

町田で生まれた小山田与清

小山田与清は天明3(1783)年、上小山田村の田中本孝の子として生まれた。19歳で江戸に出て、村田春海から国学を学ぶ。のち、江戸神田の廻漕業高田家の養子となり、家業にも長けた。48歳でペンネームとして「小山田」姓を名乗る。同時に国学を学び直して、平田篤胤、伴信友と並ぶ江戸後期の三

おやまたともきよ
大国学者となった。門人も多く、水戸藩に出仕して『大日本史』の編纂に関わった。著書『松屋棟梁集』『筑井紀行』など多数。与清の曾孫に高田早苗があり、早稲田大学初代学長(元文部大臣)に歴任した。このときの初代総長は大隈重信。(生家跡は非公開)

⑥ うすいけながやかもん 薄井家長屋門

門の両脇に部屋を備えた長屋門。薄井家は、上小山田の「名主」をつとめた旧家。幕末の名主は薄井磯右衛門（盛恭）で、大沼枕山から漢詩を学んだ。小野郷学の設立にも尽力した。長屋門は、明治時代に建築された。戸は檜の一枚板で、風格のある門構え。薄井家屋敷の傍を流れるのは小山田川（鶴見川）で、昔は堰からの揚水による水車が設けられ、精米や精粉などを行っていたという。盛恭は、多摩郡の初期自由民権運動で活躍し、喜寿の祝い文を編集した『喜寿集』が明治31（1898）年に刊行された。



📍 上小山田町55

⑦ しえいしもおやまだびょうほ 市営下小山田苗圃



町田市の公共施設、歩道、小中学校に植えられている花の苗を育てているところである。町田市から委託されて、地元の農家の方を中心に苗から育て、出荷のピークは7月上旬から8月中旬とのこと。ここでは苗だけでなく堆肥も出荷しているが、今は一般の方々への販売はしていない。道路沿いにはとても

綺麗な花が植わっており、町田市の緑化事業の一翼を担っている現場を見ることのできる貴重なところである。

📍 下小山田町2489 / ☎042-797-8782

⑧ のうみんぶんがくさっか うすいきよしのひ 農民文学作家 薄井清之碑

下小山田に生まれ、町田を書き続けた農民文学作家。平成19（2007）に77歳で亡くなった。著作は、小説『燃焼』（第一回農民文学賞）『権兵衛の生涯』『ノ一政の悲劇』ほか、ルポルタージュ『都が土を狂わせる』『証言 農の軌跡』などを発表して社会に警鐘を鳴らした。農民文学会で活躍し、町田市の文化財保護審議会や町田地方史研究会の要職について市の文化活動にも尽力した。本碑は平成20（2008）年、遺族によって自宅に隣接する墓地に建てられた。自宅は非公開。



📍 下小山田町1963



とりつ おやま だりょくち
都立小山田緑地



平成2（1990）年6月に開園した都立自然公園。丘陵地の雑木林や谷戸の自然がそのまま残り、コナラ、クヌギ、シラカシの林や草地の丘に多摩丘陵の原風景をとどめる。広さは山中、大久保、梅木窪の3つの分園を合わせて約42ha。丘陵のみはらし広場からは富士山が望ま

れ、平成16年国土交通省「関東富士見100景」の一つに選ばれた。谷あいの芝生広場には、こどもたちが遊べる木製の遊具が設置されている。本園入口のサービスセンターで案内図をもらおうと便利。



下小山田町361-10 / WC

コラム

小山田三つ葉

「冬でも現金収入が得られる作物はないものか」。南多摩郡忠生村上小山田（現町田市上小山田町）の田中庫三少年が夢を見たのは、明治30年代。当時の農家では養蚕が主な現金収入の道だった。田中家を定宿にしていた鯉節行商人が「平塚では真冬でも“もやしみつば”をつくっている」との話を聞き、田中少年は手弁当で30km離れた平塚へ行って教えを受け



た。そして太陽の熱をうまく穴の中に導いて、三つ葉を温め栽培する小山田三つ葉の軟化穴方法を大正12（1923）年春に「田中式無加温軟化技術」として完成した。昭和の初期から昭和30年代まで「東京名産“小山田三つ葉”」として人気を博した。昭和42（1967）年秋、田中庫三氏は小山田三つ葉創始の功績により「黄綬褒章」を贈られた。現在は生産していない。

10

だいせんじ

大泉寺（曹洞宗 補陀山 永月院）

ほたさん

文化財



総門、山門、本堂と続く参道は歴史の古さを感じさせる。大泉寺は市内では指折りの名刹。市内に末寺が5つある。安貞元(1227)年、小山田領主、小山田五郎行重が、父有重の菩提を弔うために真言宗の寺を創建したのがはじまり。その後、応永元(1394)年、無極慧徹和尚が「曹洞宗」に改宗、小山田別当有重

の法号「大仙寺殿天柱棺公」よりとって寺号とした。江戸時代の朱印高は八石である。現在地に移して再興した。本堂の裏山は、小山田城の本丸跡と伝えられている。境内には、小山田氏一族供養墓、小山田城址碑、小山田太郎高家公顕彰等がある。明治初年には、「小山田学校」独立校舎が建ち、句会や読書会が開かれていた。境内参道には観音堂、弁天堂、秋葉神社等がある。参道は桜の名所としても知られている。観音堂は武相卯歳霊場11番。



参道に咲く桜

小山田城址（非公開）

小山田氏は、桓武平氏秩父流から出て、12世紀のはじめに小山田有重が開発領主となって小山田荘を支配した。現在の大泉寺が居館跡と推定され、その裏山に小山田城があった。小山田城は、自然の地形である入り組んだ谷戸と、丘陵部を利用した城塞であったと考えられる。また、付近には、的場、牢場という地名がある。有重の二男重義は小野路城、三男重成は稲毛荘を、四男重朝は榛谷御厨をそれぞれ領した。重朝は弓矢に関する逸話を多く残す。兄重成とともに、北条氏に滅ぼされた。なお、小山田城址は整備されていないので立ち入りは禁止されている。

無極和尚坐像（都指定有形文化財）

むごく

文化財

大泉寺の再興した開山無極慧徹は、永享2(1430)年に没した。この像は219年後の慶安2年(1649)、23世頂虎和尚の代に、京都の仏師宗心により製作されたことが像内の墨書銘によってわかる。江戸時代前期の彫刻だが、鎌倉時代以降の頂相(禅寺の高僧の肖像。画像は写実的)彫刻の伝統的作風を忠実に伝えている。寄木造、像高70.3cm。



下小山田町332

11

かさね じんじゃ

上根神社



下小山田の地には古くから、堀ノ内（小山田城跡内）に宇都社（万治3（1660）年3月創建、小川家、志水家、中丸家の守り神）と天王社（悪疫退散・五穀豊穡）、山ノ端に古金社（天和2（1682）年9月創建、薄井家の守り神）、南大沢に白山社（享保4（1719）年9月創建）、小沢家の守り神）、

山谷台に住吉明神（嘉永3（1850）年創建、中丸家、臼井家の守り神）があった。

第二次大戦後の昭和25（1950）年5月14日に5社が合祀され、地名をとり「上根（かさね）神社」が、南中山に昭和40（1965）年5月28日に創建された。以降、上根地域の鎮守として広く尊信されてきたが、宗教行事が神社境内だけで遂行できない等の事由により、大泉寺参道沿いに、平成16（2004）年12月28日に社殿を再建し遍座した。また本社社殿及び社務所・神楽殿が、平成17（2005）年3月に落成した。御祭神は宇津姫命、金山彦命、白山姫命、猿田彦命等。



下小山田町332-13

12

おやまた じんじゃ

小山田神社



創建年代は不詳。字桜ヶ谷の蓮田の中にある神社で、古くは内御前社と呼ばれた。小山田重義の妻は宇都宮宗綱の娘で、この妻の霊を祀ったことによるものと言われる。明治時代に小山田神社と社名を変えている。境内に村内各所に祀られていた神様を含む石祠が10体ある。古く例祭日には湯花神楽が行われていた。祭神は天照皇大神である。



下小山田町4000付近

13 まちだしこうこしりょうしつ 町田市考古資料室

文化財

町田市は市内でも遺跡の多い地域で、1,000ヶ所を超えており、この資料館には発掘された遺物や調査記録類が保管されている。形のある土器類だけでも3,000点がある。旧石器時代の木曾森野遺跡の石器、縄文時代草創期のなすな原遺跡の隆起線文土器など町田最古のものがある。また、木曾中学校遺跡のクルミ形土器や、能ヶ谷から出た室町時代の古銭など貴重なものもある。



能ヶ谷出土銭遺跡出土品一式

(市有形文化財)

平成6（1994）年11月に能ヶ谷町で水道管理設工事をしている、大量の銭貨を発見した。約9万枚、重さで350kgもあった。これは、木の桶に入った状態で見つかり、木製の桶の発見は珍しく、容器の発見でも注目された。銭貨は、97種類あり、北宋期（960～1127）のものが、全体の約80%を占めている。誰が、何のために埋めたかは、永遠のミステリーである。平成9年に文化財に指定された。



📍 下小山田町4016 / WC

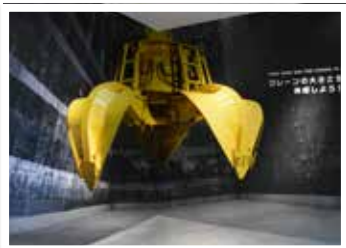
14 さくら通り

大賀藕絲館から町田市バイオエネルギーセンター、室内プール・温浴施設へ向かう道も桜並木が美しい。ゆるやかな坂道を下って、また上るバス通り沿いにも桜の大樹が並ぶ。町田市は桜美林学園前の町田街道から日大三高に延びるこの道を「さくら通り」と名付けた。約220本の桜は見事である。



15 まちだし 町田市バイオエネルギーセンター


令和4（2022）年1月に稼働開始した、生ごみのバイオガス化施設とごみ焼却施設を一体的に整備した首都圏初の施設。二酸化炭素排出量を減らすため、旧施設よりも焼却炉の規模を縮小し、生ごみを利用して発電するバイオガス化施設を新設した。市民から回収するごみを対象としたバイオガス化施設は東日本で初。



バイオガスとは、微生物の力を利用して生ごみなどから発生させるガスの事。生ごみなど有機性のごみを選別し、発酵槽で20日間発酵させ、メタンや二酸化炭素などの燃えやすい気体を利用して電気をつくる施設となっている。発電できるため、災害などの停電時でも稼働できることが特徴の1つ。同センターでは災害時、外部電力なし




で焼却炉や不燃・粗大ごみ処理施設も動かせるようになってきている。敷地内には、町田リサイクル文化センター（下小山田町）も併設。環境学習の場として趣向を凝らした展示物等もあり、「熱回収施設」「不燃・粗大ごみ処理施設」「バイオガス化施設」を直に体感できる施設見学を受け入れている（要予約）。

 下小山田町3160 / ☎042-722-3111 / WC

16 しりっしっない おんよくしせつ 市立室内プール・温浴施設

町田市バイオエネルギーセンターのゴミ焼却余熱を利用した温水プールと温浴施設。プール棟には、50mの公認プール、25mプール、幼児用プール、健康体力相談室、トレーニング室を完備。ワンポイントレッスン、水中エアロビクス等の当日参加型プログラム、小学生スクール等の集中参加型プログラムを開催している。温浴施設棟には、浴室、休憩室、多目的室があり、卓球やダンス、ヨガ等のスポーツを行うことができる。



 図師町199-1 / ☎042-792-7761 / WC

小山内裏公園と鶴見川源流を訪う

公園の自然と尾根緑道を楽しむ



① ふたつぎじんじゃ 札次神社



創建の年代不詳。常陸国一之宮の鹿島神宮を勧請した。故に主祭神は武甕雷命（タケカツチノミコト）。宝暦6（1756）年8月に再建された。札次神社はもと片所の高台（尾根緑道の高台）にあった津島神社と田端の八坂神社とともに昭和39（1964）年頃に合祀された。本殿の覆屋は平成11（1999）年9月の建替。拜殿が昭和26（1951）年

建替。同社の特殊伝統の神事として、大祭式典終了後、「湯花の神事」を行う。同社の入口にある蚕種石は子孫繁栄と養蚕信仰のため祀られている。境内のヤマザクラとシラカシは、町田市名木100選。

📍 小山町2554

② とりつおやまだいりこうえん 都立小山内裏公園

町田市で最大面積の都立公園（約46ha）で多摩丘陵の尾根上に位置し、現在でも湧水の豊富な谷戸地形が良好な姿で保存されている。公園の大部分は多摩丘陵に特徴的な雑木林で覆われており、谷戸部分の湿生草地とともに良好な植物が維持され、さまざまな動植物が生息している。園内には尾根緑道が通り、



展望広場からは、大山、丹沢山系が望める。公園内ではパークセンター、水辺広場（大田切池）、鮎の道、かわら尾根やサンクチュアリを巡ることができる。大田切池は人工池だが、大田川の源流で、多摩川に注いでいく。

📍 小山ヶ丘4-4 / WC



豆知識

サンクチュアリ

小山内裏公園には「サンクチュアリ（自然保護区）」が4か所ある。昔からの自然が残され、生き物たちの貴重な生活の場を確保するために公園開発時に、指定された場所である。谷戸の地形と湧水、そして動植物とのつながりを丸ごと保全し、後世に残していくため、許可なく立ち入ることはできない。

③ かたそやと 片所谷戸

片所谷戸は約4haの広さで、小山内裏公園と境川の間にある。地域の少ない



雨水を集めて、境川に注いでいる。ここには、タマノホシザクラが自生しており全国的にも貴重な場所となっている。一部に公有地を含むが、ほとんどが民有地で構成されている。ここは貴重な動植物が見られ、NPO 団体が大事に管理をしているので、立ち入りには十分配慮していただきたい場所である。

④ でんしょうおやまじょうし 伝承小山城址



小山町の御嶽堂の多摩丘陵上には平安末期から、鎌倉時代初期にかけて活躍した小山太郎有高の城址といわれる伝承地である。小山太郎は源頼朝の有力御家人であったが、建暦3（1213）年の和田合戦で戦死し、小山氏は滅びた。平成3（1991）年3月から東京都埋蔵文化財センターが

片所の発掘調査を行ない、柱の穴と土塁の跡と内堀、外堀を発見した。生活用具は発見されず、急斜面のため、かなり堅固な山城であったと想像される。堀の造り方などから、後北条時代のものとも考えられる。この場所は高台だが、多摩ニュータウンの道路部分となり削られ、今は造成され、遺構はない。

⑤ ふくしょうじ 福生寺

福生寺は、天野孫兵衛清彦が開基、玄良法師が開山となり天福元（1233）年に創建、江戸期には寺領12石2斗の御朱印状を拝領したとされる。観音堂内には町田市指定有形文化財の木造菩薩立像が安置されている。また境内のモッコクの木は町田市名木100選に指定。武相卯歳観音霊場四十八ヶ所の28・29番。



📍 小山町2524

6 おわりょくどう 尾根緑道



小山田内裏公園東展望広場からの眺望



東の大賀藕絲倉から西は鎌水（八王子市）まで約9kmに及ぶ緑道。遊歩道が整備され、富士山や丹沢の山々、相模原市橋本の高層ビル群等を一望できる。春は早咲きから遅咲きまで約370本の桜や菜の花等が見られ、秋にはコスモス、紅葉等も楽しめる。尾根緑道は太平洋戦争時、戦車道路と呼ばれ、相模陸軍造兵廠（現在の米軍相模原総合補給廠）で作られた戦車・装甲車両のテストコースであった。戦後は防衛庁が使用したが、昭和51（1976）年町田市が国から借り受け、尾根緑道となった。

📍 下小山田町～常盤町～小山ヶ丘 / WC

7 やと トバ谷戸

鶴見川源流の七つの谷戸の一つ。以前は水田等が多くあったが、近年人手の関係か水田は少なく、雑草が多くなっている。しかし、谷戸の風景は素晴らしく、ここを散策すると都会の雑踏も忘れ、しばし自然を楽しめる。



PICK UP▶▶▶

まちだシルクメロン

町田市のブランド名産品、「まちだシルクメロン」は、町田商工会議所工業部会に所属する10社が異業種の農業に挑戦し、平成27（2015）年に誕生した。栽培、販売等を手掛けるのは、開発型中小企業集団「まちだテクノパーク」に入居する機械器具製造会社からなる（株）まちだシルク農園。町田の技術が集結した「町田式水耕栽培法」により一株から最大約60個を実らせ、水耕栽培ならではのみずみずしさや糖度の高さが魅力。同農園では現在、48株を16株ずつ順番に栽培。収穫したメロンは贈答品として全国から注文が入るほか、市内の各店が手掛ける「まちだ名産品」のスイーツやメニューの原料としても活用されている。



おやま かみめま こうえん
8 小山上沼公園



小山上沼公園は市が管理する都市公園で、都が当時進めていた「相原・小山土地区画整理事業」によって整備され、平成16(2004)年4月に開園。面積は約3万千㎡を誇り、公園中央部には調整池と遊水池の広場（二次調整池）、池を周回できるジョギングコース(1周500m)などが設

けられていた。令和元(2019)年に「スポーツ環境の充実」を目標に掲げる市により同園のスポーツ施設整備事業が立ち上がり、多目的グラウンドや照明設備を整備。令和5(2023)年4月からスポーツ施設として運用がスタート。

小山ヶ丘3-1-1 / WC

おやま ばんば やと こうえん
9 小山馬場谷戸公園

小山馬場谷戸公園は雨水貯水池がメインの大きな公園（約2万3千㎡）。高い位置にある外周道で散歩を楽しめる。遊具エリアには複合遊具とスプリング遊具、健康遊具は健康遊具エリアとくっきりわかれている。平成29、30(2018、19)年には近隣の3町内会が合同で、園内に河津桜を植樹。寄付を行った桜美林ガーデンヒルズ(サ高住)と協働で、小山さくらまつりを開催している。



小山ヶ丘1-1

お散歩グルメ情報

井上靴店



創業 1875 年。
 手間暇をかけた昔ながらの製法にこだわり、添加物を一切使用

せず、原材料もすべて国産のみを使用した、町田唯一の手作り味噌店。

小山町2483-2 ☎042-797-7044

サクラれすとらん



サ高住「桜美林ガーデンヒルズ」内にある入居者以外の一般利用も可能なレストラン。明る

くカジュアルな店内で、各種定食やなどメニューも豊富。

小山ヶ丘1-14-1 ☎042-794-8920
 年中無休

昔ながらの雰囲気を留めている古寺や縄文時代の遺跡等、歴史に触れられる場所があるかと思えば、親子で楽しめる大型公園が点在する。高台からは大山・丹沢連峰が一望でき、天気が良ければ富士山を見ることが出来る。





せい すい じ

清水寺（臨濟宗 妙心寺派 端石山）

文化財



観音堂（本堂）

清水寺は、京都妙心寺派末寺で寛永元（1624）年に創建。本尊は聖観世音菩薩像。石段に沿って本堂（観音堂）、水屋、鐘楼の各文化財、庫裏（くり）が並び、江戸時代の優美な木造彫刻を見ることが出来る。各建物には、徳川家の家紋の「三つ葉葵」が施されている。また周辺のアカガシ群落は町田市天然記念物。観音堂ははじめ水屋の彫刻も素晴らしく、時間を

忘れてしまうくらい奥の深さがある。これらの3棟の建物は嘉永3（1850）年に、名主 青木勘次郎易直の支援によって作られた町田市指定文化財となっている。境内には青木得庵の妻が得庵の地域医療（種痘）の業績をたたえて建立した善寧児先生碑がある。剣術師範の天然理心流宗家2代目近藤三助の供養碑は、門人53人が建てた。門人の1人に宗家3代を継いだ小山出身の島崎関五郎（近藤周助）の名がある。武相卯歳観音霊場27番札所である。



鐘楼



相原町701 / WC

コラム

青木得庵と種痘

青木得庵は文化3（1806）年に多摩郡谷保村（国立市）の本田家に生まれた。青木勘次郎易直の姉喜代と結婚し、青木姓になった。漢方を本田覚庵に学び、書を市川米庵に師事した。得庵は天然痘の流行が、郷民に大きな被害を及ぼすことを憂い、種痘術の必要性を唱えていた。そこで、長男玄禮を江戸の名医伊東玄朴に入門させ、種痘術を学ばせた。しかし、玄禮は若くして没したので、得庵は、玄禮の代わりに種痘を行なった。村人は、「牛痘を植え付けると角が生える」といって、これを拒んだ。そこで、得庵は、5歳の息子桃吉に牛痘を接種して安全性を証明した。得庵

は、金銭を惜みず、労をいとわず種痘の重要性を説いたので、だんだんと接種するものが増え、多摩郡をはじめ、相模国高座郡、津久井郡、愛甲郡に及び、得庵の努力によって、天然痘の流行を防いだという。得庵は、牛痘を発見したイギリスのジェンナーを尊敬していて、祠を造って祀り毎日お参りをしていた。得庵は慶応2（1866）年に61歳で没した。妻喜代は、得庵の27回忌（明治25（1892）年）のときに、その祠が朽ちていたので自分の小遣いで、清水寺にジェンナーの碑を建てた。世界で一番古いジェンナー碑で、「善寧児先生碑」と記されている。

清水寺の三つ葉葵

徳川11代將軍家斉の時代、大奥で御中臈を務めた禪真院と侍女妙光院の2人が、城



下がりの後、この寺に住まったことから、本堂、観音堂、水屋、鐘樓に徳川家

の「三つ葉葵の家紋」が許された。2人の処遇につき幕府から依頼された相原地区の旗本建部家は信頼する青木家に相談した結果、青木家の菩提寺である清水寺へ身を寄せたのであろう。なお、御中臈禪真院、侍女妙光院の墓は長福寺（P94）の墓地の最前列にあり大山、丹沢山系が見える。

② 蚕種石

まゆの形をした石は蚕種石といわれて、養蚕が盛んだった時代に農家の人たちが「蚕の守護神」として信仰していた。八十八夜が近づくと緑色に変わって、農家の人たちに「蚕のはきたて（卵からかえったばかりの蚕を蚕卵紙から移すこと）の準備をなさい」と知らせてくれたと伝えられている。由緒あるこの石も、長い間土に埋められたまま顧りみられることもなかったが、昭和40（1965）年有志によって個人宅に移され、さらに現在地に祀られた。



PICK UP ▶▶▶

東京五輪2020 ロードレース開催

コロナ禍により1年遅れて開催された東京2020オリンピック。町田市内の約3.4kmを通過する自転車競技ロードレース男子、女子が令和3(2021)年7月24日、25日に行われた。天候に恵まれ両日ともに30度を超える気温の中、小山内裏トンネルを抜け町田市に入ってきた選手達は多摩ニュータウン通りの坂を颯爽と下り、町田街道に入ってしまった。町田街道を走り抜けJA町田市堺支店前の交差点を曲がり相模原市へと走り抜けて行った。



テストイベントの様子

競技開催を記念し、目の前がコースになった多摩境駅前には記念銘板が設置されている。また聖火セレモニーが行われた町田シバヒロにも設置された。

③ みつめやまこうえん 三ツ目山公園



久保ヶ谷戸通りを進むと、高台から三ツ目山公園の全貌がみえ、素晴らしい景観。左側は多摩境通りの向うに高層マンションが3棟、正面は公園開園と同時に建設された小学校、その手前に横穴墓がみえる。右手にある雑木林の中に、日枝神社の赤い屋根がみえる。



る。後ろには、現代的な大型ショッピングセンターの建物がある。この公園は、町田市が自然を残したもので、新興住宅市民の癒しの場とした。

令和1（2019）年には芝生広場と周辺の樹林地に三ツ目山冒険遊び場がオープン。自然の中で、子どもたちの自由な遊びが実現できる場所になっている。

くぼがやとおうけつぼ 久保ヶ谷戸横穴墓

三ツ目山公園内に、久保ヶ谷戸横穴墓が復元されている。この地より250m西方の傾斜地で、平成9（1997）年7月多摩ニュータウンの造成中に発見されたNo.313遺跡1号横穴墓をもとに築造された。この付近一帯を支配した有力者の墓とされる。遺体を安置する墓室に通じる前庭部の長さは19mもあり、全国でも最大規模となる。



📍 小山ヶ丘5-38 / WC

4 ひ え じん じ ゃ 日枝神社

文化財



創建は不詳である。通称を三ツ目の山王様と呼ばれる。社殿には、中央に主祭神大山咋命を、左に金毘羅大神・大物主命、右に八坂大神を奉斎している。八坂大神（疾病除の神）は7月25日が夏祭りで、当日町内巡行の神輿の渡御がある。また、市無形民俗文化財の三ツ目囃子は毎年祭礼に奉納しており、享保年間（1716～

1736）の初期より五穀豊穰を祈念するお囃子であり今に続いている。なお、大戸八雲神社の大戸囃子と同時に昭和38（1963）年に市無形民族文化財に指定された。昭和44（1969）年に拝殿改築、昭和59（1984）年に社務所が新築された。境内が高台のため展望がよく、参拝を兼ねて多くの人々が訪れる。例大祭は以前9月5日であったが、近年実施日は年により変わる。

📍 小山町3741

5 ほう せん じ 宝泉寺（臨濟宗建長寺派 金竜山）

文化財

開山は延文4（1359）年。立川の普濟寺末寺である。小山に住んだ幕末の絵師 島崎旦良（1766～1818）が描いた「十六羅漢図」（市有形文化財）が納められている。鐘楼堂の側にはアカガシの古木があり、カヤ、タラヨウとともに町田市名木100選に選ばれている。



❖ 釈迦如来坐像（木造）

昭和60（1985）年に市指定有形文化財に登録された本尊は、像高一尺三寸で、延文4（1359）年に作られた町田市最古の銘文を有する仏像。




📍 小山町3629

6 おやまたばたしぜんこうえん 小山田端自然公園



この公園は、自然をそのままに残しており、ふだんから子どもたちがよく遊んでいる。公園北側の湿地ではホトケドジョウなどが確認されている。カタクリやキツネノカミソリの群落があり、カタクリは年2日、キツネノカミソリは年1日公開される。公園の北側は小山内裏公園。

 小山ヶ丘5-8

7 たばたかんじょうつみいしいこう 田端環状積石遺構

文化財

大小さまざまな石が楕円形に並んだ遺跡は、縄文時代後期中頃から晩期中頃にかけて作られた。古代の人々の重要な儀式の場（祭祀場）であると考えられており、この場所から冬至の日には、夕陽が丹沢最高峰の蛭が岳の頂上に沈むのを見ることができるとされている。昭和46（1971）年に東京都の史跡に指定された。現在は、埋め戻し保存され、復元展示されている。この遺構は都内で唯一、見学できるストーンサークルである。



 小山町3112-2、3113-2

コラム ミツ目囃子

文化財

江戸時代後期から伝えられ、明治12年より復活した。2頭（雌・雄）の獅子と神人が繰り広げる幽玄の世界で、五穀豊穡を祈り、悪霊を撤退させた喜びを演じる。全国的にも珍しい火祭薪囃子で平成4（1992）年からは隔年で実施されている。



8 おやまはくさんこうえん 小山白山公園



縄文時代中～後期の住居跡が67軒発見され、位置から田端環状積石遺構と一体となった集落と考えられている。この地域は、日本最大の古墳時代粘土採掘群が発見された場所であり、相模国分寺の瓦を製作したという近くの小山内裏公園のかわら尾根の瓦製造場所へ供給していたと考えられている。現在は多摩ニュータウンの一角で公園となり、地下に防災用の地下水を蓄える施設を整えている。また公園からの眺望も良く、橋本駅周辺の高層ビル群を通して丹沢連峰を見ることができる。園内のヒイラギは町田市名木100選。

📍 小山ヶ丘5-38 / WC

コラム

近藤周助（小山出身）と近藤勇

近藤周助は、多摩郡小山村三ツ目の名主島崎休右衛門高友の五男として、寛政4(1792)年に生まれた。文化8(1811)年に、戸吹村(八王子市)の天然理心流2代師範近藤三助に入門した。三助は武術の達人であったが、文政2(1819)年4月26日、相原村に出稽古のおり、急病により46歳で没した。七回忌の文政8年に三助の門人相原村の青木勘次郎や近藤周助らは、三助の供養碑を相原の清水寺に建てた。周助は天保元年に姓を島崎から近藤に改め、生家に道場を作り剣術を教えた。天保10(1830)年に江戸の市谷柳町に道場を移した。近藤勇は上石原村(調布市)で天保5年に宮川久次郎の三男に生まれ、嘉永元(1848)年11月に周助に入門。1年後、見込まれて周助の養子となった。名は島崎勝太と名乗り、のち島崎勇となった。文久元(1861)年に周助から指南免許を授かり、4代目師範となった。名は、流祖の姓を継ぎ近藤勇となった。勇は、周助の代師範として小野路村名主小島鹿之助宅に出入りし、のち義兄弟の契りを結んだ。小島家は土

方歳三家とも親戚にあたり、歳三もよく小島家を訪れている。鹿之助は漢学者で近藤に攘夷思想などの影響を与えた。近藤は文久3(1863)年2月に門人を引き連れて上洛し、新選組を結成した。京都の治安に命身を賭して勤めたが、その根底には強烈な攘夷実行の意志があった。近藤は、攘夷の漢詩を鹿之助に送っている。が、幕府はついに攘夷を決行しなかった。新選組は、池田屋事件などで活躍したが、徳川幕府は慶応3(1867)年10月に大政奉還し、同4年1月には官軍に鳥羽・伏見の戦いで敗れた。近藤勇は、勝沼、流山で敗れ、4月25日に板橋で斬首された。



相原の自然と文化財を訪ねて 相原七国峠古道と建築文化財を巡る

相原駅から、丘陵の尾根伝いに相原かま跡を通り、津久井方面から八王子方面へ通ずる鎌倉古道の七国峠を抜け、疫病を治めたという大日如来堂へ向かう。平地部に移り、名建築の長福寺を見て、諏訪神社を経て相原駅に戻るのがおすすめのルート。





① 相原かま跡

文化財

明治41（1908）年開通の横浜鉄道トンネル工事の際に発見された。御殿峠を挟んで数百基の窯跡（南多摩郡窯跡群御殿山支群）が確認されている。八王子市側は住宅開発で消滅したが、町田市域の境界山林は発掘されないまま残っている。瓦は国分寺や国府に使われたといわれており、多くの工人が働いていた。



南多摩窯跡群、御殿山支群

② 相原七国峠古道

あい はら なな くに と う げ こ う 道



津久井方面から八王子方面へ通ずる鎌倉古道。江戸時代には相模川で捕れる鮎をいち早く江戸府内へ運ぶルートとして使われ、「鮎の道」とも言われていた。往古武相の行き来に使われており、峠を越えて行く際に七つの国が見えたことから「七国峠」と呼ぶ。どの国が見えたかは諸説あり。八王子市境尾根は古くは武蔵・

相模の国境とされてきたが文禄3（1594）年の太閤検地で、国境はそれまでの丘陵杣道から田倉川（高座川）に代えられた。以来、川の北を武蔵に編入、相模との境となったため境川と呼ばれるようになった。

③ 大日如来堂

たい に ち に よ ら い だう

大日如来堂は『新編武蔵風土記稿』には、「除地4畝20歩。村の北なる山の中腹にあり。堂9尺四方。本尊は大日如来で石造りの坐像、長2尺なるを安置。覚王院の持なり」とある。近くの字三堂谷にあった七国山清眼寺と呼ばれた本尊は60cmの不動明王像である。覚王院は本山修験で木曾の覚圓坊の触下だった。



そのため、大日如来堂も明治元（1868）年に廃寺となった。その後、疫病が蔓延したため、真米地区の人々が再び大日如来を安置したら疫病が治まったという。近くに七国峠の最高点223mの基準点がある。


④ ちょうじゃ くぼ 長者窪

多摩丘陵でも美しい畑が広がるこの所は長者窪の長者屋敷と呼ばれ「朝日さし輝く木の下に宝物が埋まっている」という朝日長者伝説が残されている所である。地元の方が近年高台に2つの横穴を発見し、1つの穴からは刀剣等が出土している。



⑤ み たけ し ゃ 御嶽社



 相原町2188

祭神は不明とされるが、日本武尊といわれている。正保4年（1647）9月15日滝の谷に松本家の氏神として創建された。享保10（1725）年7月25日社殿再建した。寛文7（1667）年の検地の時、畑5畝20歩の除地があった。鳥居の据石に安永2（1773）年11月とあり、鳥居の建立の年月日を記している。同社は中相原会館に隣接している。

⑥ おさる様

水子地蔵と同様の意味を持ち、いつしか「おさる様」と呼ばれた。昭和の時代に都道の改修により今の位置に移設。そばには、東京家政学院大学設立時に移設された「ひるこ参道のつげ巻地蔵」、ゴルフ場開設により移設された「金比羅様」が祀られている。



お散歩グルメ情報



東京みるく工房 ピュア

北島牧場直営のジェラートショップ。イタリアでジェラート修行をしたスタッフが作る豊富なラインナップや町田や八王子など地元の名産を使ったジェラートが話題。ミルクやヨーグルトの販売も。



相原町2558 ☎042-783-3694 水曜・木曜定休

7

ちょうふくじ
長福寺 (曹洞宗 籌國山)

文化財



寛永2 (1625) 年開山。本尊は木造で釈迦牟尼佛坐像。文化9 (1812) 年に寺谷戸から現住所に移転。天保13 (1842) 年、本堂と庫裏が移築され、続いて山門、文殊堂、鐘楼などが建立された。本堂の格天井は江戸の狩野派の絵師、長谷川雪提によって、桜、水仙、紫陽花などの草花が35枚



描かれている。また、山門の扉の「竹林の七賢人」「舜楽図」や文殊堂前柱の登り龍・下り龍等の優れた彫り物が見られる。本堂格天井花丸絵画・山門・文殊堂は、市指定文化財になっている。これらの新築、製作に私財を投じたのは名主の青木易直である。

山門



文殊堂



御中臈と侍女の墓



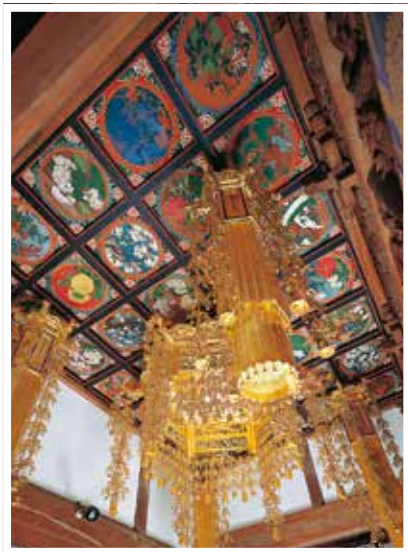
参道



ほんどうごうてんじょうはなまるかいが
本堂格天井花丸絵画

文化財

本堂内陣 (15畳敷) の格天井に彩色鮮やかな花卉図35枚がある。作者は長谷川雪提で、「すすきに紅花図」に款記がある。雪提の父雪旦は、『江戸名所図会』の挿絵を描いた絵師として有名である。



相原町2109

⑧ あい はらちゅうおう こう えん 相原中央公園

相原町のほぼ中央に位置し、山林、谷戸の多様な地形を持った豊かな自然に囲まれている。広さ約15.7haの総合公園である。サッカー、野球のためのグラウンド、テニスコート、スポーツ広場などの運動施設だけでなく、子ども用遊具、作業棟や炭焼き窯もある。園内には尾根コース、谷戸コースなどの散策路や芝生広場、さくらの丘などがあり、家族づれで一日楽しめる。



📍 相原町2018 / WC

⑨ す わ じん じや 諏訪神社

文化財

養和元(1181)年に、別当高岳坊長温が、氏子と共に信州下諏訪大明神社を丸山の現在地に、相原山大明神として勧請したもの。明治39(1906)年に村内の7社を合祀し、この地域の鎮守となる。明治44(1911)年に村内の4社を合祀して大正2(1913)年には村内各所にあった3社を合祀している。祭神は建御名方命、天王御中主命、安閑天皇、大己貴命、少彦名命、実迦之魂命、大山咋命。



まるやま ししまい 丸山獅子舞

例祭には、丸山獅子舞が社前にて奉納される。町田市の無形民俗文化財である。この獅子舞は、元和3(1617)年諏訪神社再興を図った際、村民が五穀豊穡を祈って奉納したのが起源とされる。例大祭は、毎年8月第3日曜日に執り行われる。町田では、金井八幡神社、矢部八幡神社の獅子舞と並んで三大獅子舞と言われる。



丸山獅子舞。三大獅子舞のひとつ

📍 相原町1743



天文20 (1551) 年開山。八王子の高乗寺の末寺で、本尊は釈迦牟尼仏。寛政6 (1794) 年に再建。当時の屋根は茅葺の荘厳なものだったが、昭和22 (1947) 年に改築、平成元 (1989) 年に本堂、庫裏、客殿を全面改装した。本堂には相原村の義人、諏訪加賀の位牌が安置されている。



相原町3020

コラム

中村雨紅の歌碑

明治30 (1897) 年、現在の東京都八王子市上恩方町生まれ。詩人・童謡作家。本名は、高井宮吉。大正5 (1916) 年東京府立青山師範学校 (現在の東京学芸大学) を卒業し、教師になり作家活動も開始。当時相原村の諏訪神社宮司中村家の養子となる。(大正12 (1923) 年解消)。野口雨情に師事し、その名前「雨」の一字をもらい、雨紅と称する。昭和46 (1971) 年、神奈川県立厚木病院に入



院、翌年に逝去。享年75。童謡『夕焼小焼』は大正8 (1919) 年に作詞されたが、詞の光景は相原町の「行昌寺」付近を詠ったものと言われている。平成22 (2010) 年に相原地区の人により、行昌寺のそばの町田街道沿いに、夕焼小焼の碑が建てられた。平成24 (2012) 年に相原小学校校庭に歌碑を設置。令和元 (2019) 年に『夕焼小焼』の100周年を迎え、令和3 (2021) 年に諏訪神社内に歌碑が建てられた。



豆知識

真米 (馬込)

古くは馬込と言った。三方を小高い山に囲まれて僅かに開く東南が入口で、西からは山が迫り、くびれた地形であった。武蔵の官の四牧 (石川、由比、小川、立野) から朝廷に献上する貢馬が集められたため、馬込の地名がついた。後にこの地でおいしい米がとれたので、当て字から真米となった。

11 まる やま かい でん ひ 丸山開田の碑

丸山公会堂の敷地内に設置されている。丸山地区一帯は酪農家が多く、水稲への憧憬を永く持ち続けてきた。昭和27(1952)年、地域の有志組合を結成。国へ水田のための堰設置、用水の開削の嘆願をし、昭和30(1955)年に許可を得て補助金が出た。真米川を堰き止め用水を造り、最盛期には開都地区の境川からもポンプで揚水して水田に供した。



📍 相原町1771-5

コラム 相原の地名の由来と歴史

相原の名前の由来は、遠く平安時代末期にさかのぼる。当時、武蔵七党の1つといわれた横山党が、八王子から相模にかけて勢力を拡大していた。その横山党の粟飯原氏(藍原氏)が境川を挟んだこの地域を治めていた。それが相原の地名の源になったという説がある。(会原、藍原とも書かれた。)当時、境川は国の境(武蔵国と相模国)ではなかったため、相原は境川の南北にまたがっていた。(当時、境川は田倉川とか高座川と呼ばれていた。)境川が国の境になったのは、徳川家康

が関東諸国を領し、文禄3(1594)年に太閤検地を行った際、国境を村の真ん中を流れる川と変えたことによる。相原村が分割されたことにより、現在、相模原市にも相原は存在する。相原村は徳川初期は天領だったが、元禄年間に降旗本知行地となった。明治になり神奈川県に属していたが、明治26(1893)年、東京府に移管され南多摩郡堺村相原となった。昭和33(1958)年、堺村は町田町・鶴川村・忠生村と合併し、町田市が発足し町田市相原町と小山町になった。

お散歩グルメ情報



町田いちご狩り農園 やさいの家



いちごは約1,200㎡の広いハウスで栽培。高設栽培をしており、いちご狩り(期間限定・

完全予約制)もじゃがまずに楽しめる。また、市場に出せないいちごは、加工品として利用シジャムを加工製造し販売を行っている。

相原町1279 ☎080-7576-1515
不定休



町田ゆめ工房



ゆめ工房では安全性の高い素材をベースに、国産小麦やフェアトレードの素材を用いた菓子

作りを行っている。相原産の梅、ブルーベリーを使ったリキュールケーキ、パウンドケーキ、クッキーとラインナップも豊富。まちだ名産品。

相原町2983-157 ☎042-782-1491
土曜・日曜・祝日定休

町田の最西端大戸から最高峰の草戸山へ 境川の源流、城山湖を巡る自然コース

八王子市、相模原市と市堺を接し、開発された八王子市側と、豊かな雑木の里山が自然のままで残る町田市側と風景が異なる。町田市の最高峰「草戸山」を巡る本格ハイキングコース。大地沢の大地沢青少年センターには、周辺のウォークマップも用意されている。





① おお と ぼし てい 大戸橋バス停（大戸のいわれ）

甲州街道の小仏峠を避けるため、八王子 - 大戸 - 千木良 - 小原と迂回するルートがあり、大戸番所が置かれ大戸と呼ばれる地名になった。大戸には高尾や元八王子から南下する鎌倉古道山ノ道の恋路坂（峠）もあった。

② おお と かん のん どう 大戸観音堂



了心庵という草庵で八王子市山田の臨済宗広園寺の末寺「祐照庵」と呼ばれた。慶長元（1596）年に観音堂が建立された。本尊聖観世菩薩坐像は高さ1尺（約30cm）である。武相卯年観音霊場で24番札所である。もとは寄棟御堂造りの建物であったが、明治初年に火災で焼失。八王子市散田の太子堂を移築したのがこのお堂である。観音堂正面左側には明治38年日露戦争出征従軍兵士の奉納額がある。鐘楼門脇には、町田市保護樹木のいちょうが歴史を感じさせる。八王子と交流が深かったため、大戸は町田市にありながら「大戸の晩鐘」と八王子八景に詠まれている。

相原町4643

③ わか み や は ち ま ん ぐ う 若宮八幡宮

昔大戸の住人吉沢出雲が、一族の守護神として高良山に勧請したのが始まり。慶長10（1605）年創建。寛文元（1661）年、宝永3（1706）年に改築。祭神は、応神天皇と武内宿禰である。

相原町4707



コラム

町田の生んだ詩人 八木重吉

八木重吉は、明治31（1898）年に相原大戸の八木藤三郎の二男として生まれた。大正10（1921）年に東京高等師範学校卒業後、教師となった。教職のかたわら、詩作に励み、詩とキリスト教の信仰合一の生活を送った。大正14（1925）年に処女作『秋の瞳』を新潮社から出版した。大正15（1926）年3月に

千葉県柏で肺結核を発病した。その後、療養を続けたが、昭和2（1927）年10月26日に30歳で昇天した。詩人で彫刻家の高村光太郎は、「詩人 八木重吉の詩は不朽である。このきよい、心のしたたかりのやうな詩はいかなる世代の中にあっても死なない。」と絶賛している。子孫によって「茶の花忌」が営まれている。

④ とりっ おお とりょくち 都立大戸緑地

平成23（2011）年に開園。大地沢青少年センターの近く、町田市の西端と神奈川県との都県境に位置し、境川の源流域にある。小高い丘の上には「雨乞い場の碑」があり、地域のシンボルツリーとなっている「ククノキ」や段木入広場のビオトープなど、豊かな自然や里山景観が魅力だ。



⑤ Nature Factory 東京町田(旧 大地沢青少年センター)



令和5（2023）年4月から名称変更し、指定管理者制度を導入。全年齢を対象に、キャンプやバーベキューなど、自然体験を楽しむ施設としてリニューアルオープンした。同所は昭和52（1977）年に、町田市が市民の憩いの場として野外炊事上やキャビン、テントなどのキャンプ施設、本館宿泊棟、研修室などを設けた。夏にはキャンプ、バーベキュー、ハイキングなどを楽しみに訪れる市民は多い。リニューアル後は絵付け陶芸や木工、自然発見ゲームなどの子ども向けから、珈琲焙煎体験や石窯で焼くピザづくりなどの大人向けまで体験プログラムを充実を図る。

大地沢は江戸時代から、相原村のいり合い山、秣場（タキ木や薪などを採る共同使用の土地）として、桑や薪炭林として村共有の財産だった。周辺にはジャケツイバラ群生があり、5月から6月頃に黄色い花を咲かせる。

📍 相原町5307-2 / ☎042-782-3800 / WC

⑥ こぼとけそう 小仏層

町田市内に現存する一番古い地層で、1億3,500万年前～7,000万年前頃、中世代白亜紀と推定される。当時は海だったのだろう。生物の堆積物の変化して岩石になった。泥岩、砂岩から変化した、粘板岩、千枚岩、硬砂岩等から形成される。小仏層の名の由来は、高尾山の西側、小仏峠付近で多く見られる地層の特徴から名付けられた。



7 城山湖分岐

大地沢青少年センター本館の前から階段を登る。かなりの急斜面を時にはロープを伝い、標高差約80メートルを登って、神奈川県（城山）東京都（町田）の県境の尾根に出る。アップダウンを繰り返して三叉路に出るが、ここに、はなさき休憩所がある。右に行けば草戸山、左に行けば城山湖。



8 城山湖堰堤



ロックフィル方式の本沢ダム。城山湖は完全揚水式発電用湖で、流れ込む水源は無い。夜間電力需要の少ない時間に余剰電力で下の津久井湖から水を揚みあげ、昼間は発電用に揚みあげた水を使う。従って城山湖は一日のうちに25メートルぐらい水面が変動する。ここからの眺望は絶景。

9 航空神社

金刀比羅神社裏山（雄龍籠山）の山頂近辺にある。昭和16（1941）年爆撃機が墜落し、2名の搭乗員が死亡。昭和19（1944）年には一式戦闘機が墜落し練習生1名が死亡。霊を慰めるために設置された。



相模原市緑区川尻5894

10 金刀比羅神社



相模原市緑区川尻4456

文久元（1804）年に、川尻小松の商家伊勢屋が世話役となり、讃岐国金刀比羅宮へ参詣し、分霊を勧請した。祭神は、大物主神、日本武尊、崇徳天皇である。航海安全の神ではあるが、水に縁のあるところから、雨乞いの神として信仰され、辰の日に雨乞いをすると巳の日に降雨し、龍籠の池の池さらいをすると大荒れになるといわれている。

11 さかがわ げんりゅう 境川源流

暴れ川だったため、洪水の度国境は変わり、今でも川の両岸に同じ地名で武相に分かれている所が多数ある。その境川は源流部で幾筋かの支流に分れる。町田市側の源流がここ。源流部は二手に分れ、左手は城山湖分岐から、右手は草戸山から発する。ゲリラ豪雨の土砂で埋まってしまい草戸山側は埋没、城山湖分岐側はV字状の岩剥き出しの谷。左右の斜面は35度を超え落石の危険もあり、一般者の立入りは止めたい。境川は藤沢市片瀬海岸で相模湾にそそぎ、全長は52.1kmある。



12 くさとやま 草戸山



町田市最高峰、標高364m。町田市、八王子市、相模原市城山地区の分岐に位置する。山頂に祀られている山ノ神の祠は、文政10（1820）年上相原上郷中（大戸）の「山ノ神」として、丑田山にあったが、近年は大戸観音の境内に移されている。昭和61（1986）年、大雪害で付近一帯の山林の被害が甚だしく、住民総出で、倒木の伐採植



林をした。その際、麓地域の発願により、大戸観音境内から山頂に勧請した。大山祇命を祀る。以来、山は平穏である。

13 くさととうげ 草戸峠

草戸山から南高尾山稜を歩くと草戸峠に出会い、ここで相原権現谷方面と高尾四辻方面へ分れる。ここからは甲州街道を隔て高尾山薬王院などが間近に見える。



14 だん き り おか 段木入の丘



草戸峠から下り、大地沢方面の分岐（右へ下れば境川源流方面林道へ約20分）を過ぎ、町田市と八王子市の境の尾根を進む。最初のピークの先に分岐があり、右へ下れば青少年センターのアスレチックへ向かうが、途中で開けた段木入りの丘に出る。右側の開けた段

丘に出る（入口標識が近年取り外されたので要注意）。入り組んだ谷戸を見下ろす眺めの良い丘である。雨降らしから右へ切れ込んだ境川の源流部が真下にある。

15 ごん げん たい ら 権現平

真っ直ぐ進めば、蔵王社、権現谷から恋地へ出る。右へ延びる尾根についた踏み跡を辿る。

16 あま ご ば ひ 雨乞い場の碑

途中、小さな看板（見落としがち）を右の尾根伝いに進み、小さく開けた山頂に出る。丑田山山頂の碑は「雨乞いの碑」といい、相原村で早魃が続くと、この山に登って篝火を焚き、雨乞いの唄を歌いながら焚き火の回りを踊り、雨を願ったという伝説の場所である。



コラム 戦争遺跡

①多摩送信所跡

昭和20（1945）年8月10日から15日の間、日本政府のポツダム宣言受託表明に際し、政府の外交ルートとは別（海外放送、東亜中継放送）にポ



ツダム宣言受託に関するニュースを送り出した送信所跡で、法政大学工学部のそばにある。

②電話用地下ケーブル

昭和13（1938）年頃に埋設された当時の東京－朝鮮－満州を結ぶ電話線が土中に残っており、その一部が大地沢青少年センターのテントサイト北側土手の道近くに露出している。



17

えんりんじ

圓林寺 (天台宗 山門派 雲乘山地蔵院)

文化財



正長元(1428)年開山と伝えられる。本尊は地蔵菩薩立像と阿弥陀如来坐像で鎌倉時代の作であり市有形文化財に指定されている。また、室町時代の両界曼荼羅二幅とある。境内の蓮は、大賀一郎博士の古代蓮と各種の蓮で、蓮寺として有名。



相原町3729

18

やくもじんじや

八雲神社

文化財

大戸の天王様という。創立は、大正11(1922)年に土ヶ谷の天王社と五反田の天王社を合祀して、社名を八雲神社としたもので、松日楽氏の土地奇進により現在地に奉斎した。祭神は建速素盞鳴命を奉斎する。大戸囃子は市の無形民俗文化財で、毎年祭礼には奉納があり御輿の町内巡行の渡御を行う。



相原町4393

お散歩グルメ情報



カトウファーム直売所



カトウファームの新鮮な酵母たまごと濃厚なジャージー牛乳で丁寧に手造りした「かとうさんのプリン」。素材の味を活かした美味しさで「今までに味わったことがない」と評判。

『まちだ名産品』にも選ばれている。

相原町4418 ☎042-783-0158
月曜・火曜・木曜・日曜定休



らーめん武蔵堂 大戸本店



とんこつとトリガラの『二刀流』による王道から創作麺まで豊富なメニューから選べる。

チャーシュー丼や金沢カレーなど、サイドメニューも定評。

相原町3155-7 ☎042-782-5390
月曜・第2火曜定休

絹の道・町田街道と並行する駅前通り 町田市役所とその周辺の寺社や水辺を歩いて



生糸を産地・集積地である八王子から横浜港へと運ぶルートであった「町田街道」は「絹の道」とも呼ばれていた。町田街道と並行する町田駅前通り沿いには多くの店舗が立ち並ぶ。平成24(2012)年には町田市民ホール隣に町田市庁舎が今の町田シバヒロがある場所から移転した。

- 📍 観光ポイント
- 🏛️ 文化財
- 🚶 お散歩グルメ
- 🌸 桜
- 🌳 花・木のみどころ
- 📍 眺望
- 🚻 トイレ



14 絹の道・町田街道と並行する駅前通り

① まちだしにちようあさいち 町田市日曜朝市（町田市教育センター）



📍 木曽東3-1-3

町田の農業への理解を深めてもらうことを目的に、毎月第1日曜日に開催。開催時間は7:00～8:00。12月～3月は7:30～8:30。町田市教育センターの駐車場を会場に、町田産農産物として新鮮な野菜や卵などだけでなく、菓子などの町田名産品も販売。消費者と生産者の交流・情報交換の場として、賑わう。7月と12月は年に2回のみの特朝市も開催。

② おおくらゆ 大蔵湯

大蔵湯は昭和41（1966）年創業、町田で一番歴史ある銭湯。平成28（2016）年12月にリニューアルを行った。良質な天然井水を軟水化して沸かしたお湯を大きな浴槽でシンプルに提供。令和5（2023）年3月末をもって金森湯（金森）が閉店したため、市内で現存する唯一の銭湯となった。



📍 木曽町522 / ☎042-723-5664 / 金曜定休

③ もりのすみよしじんじゃ 森野住吉神社



寛永17（1640）年9月当時の領主3代目須藤太郎左衛門盛忠公が願主となり創建される。祭神は表筒男命。

宝永7（1710）年12月再建される。現在の社殿は昭和44年の造営である。

航海の守護神、和歌の神とされ、境川がしばしば氾濫を起こしたことから、住吉神社に災いを防ぎたいと信仰が集まった。

昭和10（1935）年まで鎮花祭（花しずめまつり）が行われていた。豊作を招き、虫送りをして、悪疫を防ぐ祭りであった。現在は例祭などが行われている。

📍 森野5-10-2

4

たき さわ げんりゅうこう えん つる み がわ すい けい おん た がわ
滝の沢源流公園と鶴見川水系恩田川



平成24（2012）年春に開園した公園内には小さな川が流れている。環境省の「東京の代表的な湧水」に挙げられる恩田川最上流の支流「わさび沢川」の源流だけあって、非常に透明度が高い水が湧き出ている。湧水付近では、直に水に触れ、遊べるところと、立入禁止で生物を保護するところがある。

鴨が一羽棲み着いていて地元の人を癒している。わさび沢川は、滝の沢源流公園に端を発し、暗渠区間を経て約1km下流の「町田市立本町田清水児童遊園」（町田市本町田1544-9）で、再

び姿を現す。わさび沢川の沿川では、短いせせらぎ緑道が整備されている。鶴見川水系の大きな支流である恩田川は、わさび沢川と今井谷戸から流れる今井川が合流する地点より下流側であり、町田市本町田、南大谷、高ヶ坂、成瀬の地域の支流と合流し、横浜市中山町で鶴見川に合流する全長約13.1kmの一級河川である。恩田川の両岸の桜は町田市の桜名所の一つである。



本町田1830-1

5

ま ち だ し や く し ょ お く じ ょ う は な ば た け お く じ ょ う て ん ぼ う
町田市役所（4F 屋上花畑、屋上展望テラス）

屋上を平成27（2015）年2月9日から、一部を「屋上展望テラス」として一般開放している。忠生・小山田方面を一望できるほか、相模原市や丹沢連峰を眺望することができる。祝日及び年末年始を除く月曜日から金曜日、及び毎月第2・4日曜日の開庁日の8:00～16:30に開放。また4階には屋



上花畑があり、ボランティアにより野菜づくりや収穫、草花の植え付け等が管理されている。同じく開庁日の8:30～17:00に開放。



森野2-2-22 / ☎042-722-3111 / WC

⑥ おか なお ざぶ ろうしやうてん てんちゆう 岡直三郎商店と天忠

天命7（1787）年から続く、老舗醤油醸造店。群馬県で創業し、大正8（1919）年に群馬、山梨、長野、八王子から横浜港へ生糸を運ぶ「絹の道」の中継地として活気を帯びた南多摩郡原町田に第三工場開業した。国産の有機大豆、有機小麦100%にこだわった「日本



一しょうゆ」ブランドは贈答品としても好評でまちだ名産品二も選ばれている。また、直営の飲食店として「醤油料理 天忠」も経営。“醤油を名わき役として素材の味と香りを楽しむ”をコンセプトにした創作和食を楽しめる。

📍【本社】旭町1-23-21 / ☎042-722-2024 / 土・日・祝定休
【天忠】中町1-3-4 / ☎042-739-1303 / 無休(年末年始は休業)

⑦ さかいがわ 境川 ゆっくりロード



町田駅近くを流れる境川の両岸にある、ウォーキングやサイクリング専用の遊歩道。町田市鶴瀬橋付近から坂本橋上流までの境川沿い14.5kmの区間を指す。正式名称を境川自転車歩行者専用道路とし、平成21（2009）年に町田市が愛称を募集。同年10月に「境川

ゆっくりロード」に決定した。整備された道は歩きやすく、景色もいいため散歩にぴったり。

⑧ みょうえん じ 妙延寺

永和2（1376）年檀家渋谷左近尉重宗が開基。池上本門寺第四世日山の弟子日額（にちぎ）上人開山として創建した。本堂に安置するのは、安産守護のシャモジ曼荼羅を胎蔵した満願祖師像。



600年以上、森野唯一の寺院として地域の方々歴代上人により法燈を灯してきた。

昭和20（1945）年5月24日空襲により、山門以外の全てを焼失。檀信徒の丹精により、昭和51（1976）年までに順次建物を再建した。

江戸時代、森野村を拝領していた旗本須藤家の墓所、町田村村長渋谷亀蔵等の墓がある。



📍 森野2-9-6

原町田の歴史を訪ねて

町田中心街を回遊する

町田市の中心部・原町田は、戦国時代に「二の市」を本町田村から譲り受けて分村した。横浜が安政6（1859）年に開港されると、「絹の道」の中継地として商業が栄え、今日の商都となった。原町田の史跡をめぐりながら、現在の文化施設と触れ合おう。



① カリヨン広場・「絹の道」碑



小田急線町田駅東口を出た所にある広場が、カリヨン広場と呼ばれて多くのイベント等が行われる場所である。この広場の原町田中央通りの道路脇に原町田誕生400年を記念して、地元一番街商店街の尽力により昭和58（1983）年に建立された「絹の道」碑がある。

📍 原町田6-12-20 / **七福神** 大黒天

② まちだの泉

「サルビア」の愛称で親しまれる民間交番の裏手にかつて水がはられた小さな池、「まちだの泉」がある。ここは昔、左は八王子への「絹の道」（現在は一番街通り）、右は府中への「鎌倉古道」（現在は二番街通り）の分岐点だった。



📍 原町田6-13-15

コラム

原町田七福神とは

「福德の神」として知られる「七福神」は、人の本質である最も尊い宝（寿命・裕福・人望・清廉・愛敬・威光・大量）を神仏聖人に当て、崇敬されている。「七福」は「二王経」の七難七福という言葉の語源としていて、七つの難から逃れ、七つの福を授かるというもの。原町田の七福神は、平成21（2009）年に、地元「原町田七福会」によっ

て、商店街繁栄を願って作られた。2時間程度で廻れることから人気がある。（スポットには**七福神**で表示）



③ 浄運寺 (日蓮宗 法要山)



開山は本正院日明上人、開基は矢部淡路である。天正5（1577）年7月、碑文谷法華寺より日明上人を招請し、矢部淡路屋敷内に浄運寺を興した。境内の「北辰殿妙見堂」には、国土を護り、災いを除き、福寿を増す開運の菩薩である、北辰妙見大菩薩が祀られており、古くから篤い信仰を集めている。



北辰殿妙見堂



酉の市の様子

熊手を販売する妙見尊例祭（酉の市）が毎年11月の酉の日に開催されている。



① 長岡織部の墓

長岡織部は、万延元（1860）年に高座郡蓼川から原町田へ移住した。長岡織右衛門といい刀脇差研師を業としていた。長岡は水戸の浪士で、明治初期に細野喜代四郎ら100人以上の人たちに剣術（天自流）を教えた。明治17（1884）年4月に84歳で亡くなり、24（1891）年12月に多くの門人達により、浄運寺境内に建てられた。

② 大須賀明の墓

明治20年代、三多摩壮士による政治活動が展開された。明治25（1892）年第2回総選挙の際、石阪昌孝と吉野泰三が対立候補となり、吉野派の医師大須賀明が反対グループに襲撃される事件があった。大須賀医院は明治の初め、原町田4丁目で開催していたこともあり、この場所に有志一同により墓が建てられた。

📍 原町田6-21-28 / 七福神 毘沙門天

④ 「二・六の市」の碑（町田商工会議所）

町田村の秣場を開拓してできた集落は、家数が増えたので天正10（1582）年、町田村から独立し、「原町田村」と命名。一方の町田村は「本町田村」と改名した。原町田村の土地は痩せており、農業以外の収入を得るため、本町田村で開催されていた「二・七の市」を分けてもらい、天正15（1587）年「二の市」を開設。幕末に横浜が開港すると、原町田村は八王子から繭や生糸を運ぶ「絹の道」の中継点として、各地から生糸商人が集まり、市も大きくなっていく。



原町田の「市」は、炭・薪・生糸・畑作物の他、衣料や農具など多くの物産を取り扱い、文政・天保年間（1818～1843）頃には「二・六の市」となって、月6回開かれるようになった。この「二・六の市」では山梨、八王子などの山の産物と横浜からの海産物の取引の場でもあり、乾物屋が今も多く残るのはそのためといわれている。「二・六の市」は、今日の原町田商店街発展の礎を築いたといえる。



原町田3-3-22（町田商工会議所建物左横）／七福神 福祿寿

コラム

シュリーマンが訪れた旅籠「吉田屋」

トロイ遺跡の発掘で有名なハインリッヒ・シュリーマン(1822-1890)が訪れた旅籠「吉田屋」が、現在の町田商工会議所の地にあった。彼は、慶応元（1865）年、世界漫遊の旅の途中、日本に1ヶ月ほど滞在し、旺盛な

探求心と情熱で日本を見ている。八王子の行き帰りに原町田の「吉田屋」に宿泊。『シュリーマン旅行記清国・日本』には、清潔感あふれる宿屋の様子が描かれている。



幕末の原町田 万延元（1860）年
横浜開港により来日した
英国人写真家F・ベアトが撮影
（原町田中央通り・4丁目付近）
（横浜開港資料館所蔵）

⑤ はたご むさしや あと 旅籠「武蔵屋」跡（町田市立中央図書館）

現在の中央図書館がある場所に旅籠「武蔵屋」があった。明治17年小説家・樋口一葉と婚約した渋谷三郎（後の阪本三郎1868-1931）は、原町田の旅籠「武蔵屋」渋谷徳次郎の二男。のち破談となるも、この出来事は一葉の生涯を語る上で欠かせない。民権期の政治結社融貫社の事務所がおかれたのも、ここで考えられている。昔、旅籠があったところに、現在ホテルがあるのも歴史の流れを感じさせる。

📍 原町田3-2-9（市立中央図書館・レンブラントホテル東京町田）

⑥ まちだ し みるん ぶん がく かん 町田市民文学館ことばらんど



玉川学園に暮らした小説家遠藤周作氏の遺族からの、蔵書や遺品の寄贈をきっかけに、平成18（2006）年開館。詩人八木重吉、現在住の森村誠一氏など町田ゆかりの文学者に関する資料を収集・保存し、展示・企画展の開催、資料の貸し出し・閲覧を行っている。また、子ども向けの企画展も行っている。市民が利用できる会議室や、1階入口には喫茶「けやき」がある。

📍 原町田4-16-17 / WC

⑦ そう ほ いん 宗保院（曹洞宗 金森山）



天文11（1542）年に吸江吞怒和尚により開山。当時は金森村であったので、山号になった。入口の巨大な山門では、黒々とした仁王像の威容を見ることが出来る。旧山門は原町田3丁目の勝楽寺斜め前の位置に建っていたが、明治41（1908）年の横浜線開通により1丁目の通りに接する現地に移された。

📍 原町田1-8-13 / 七福神 布袋尊

8 しょうらくじ 勝楽寺 (浄土宗 三宝山)

文化財



開山は源蓮社
光誉。開基は三
橋新右衛門で、
天正元(1573)
年に八王子の極
楽寺の末寺とし



て創建された。本尊は阿弥陀三尊像で市指定有形文化財である。廃仏毀釈の際大山阿夫利神社から移された良弁不動尊がある。目をひく近代的な高層納骨塔(無量寿の塔)の塔頂部の相輪は造形美術家・故 三橋國民氏(名誉都民・名誉市民受賞)の作品である。また、納骨堂とホール、ギャラリーを備えた釈迦堂には1階から3階へと続く巨大な壁画「潮音大仏」がある。ギャラリーは太平洋戦争を経験した三橋の作品が展示される鎮魂記念館である。

📍 原町田3-5-12 / 七福神 寿老人

9 まちだてんまんぐう 町田天満宮

町田村分村により、原町田が誕生した天正10(1582)年頃の創始と伝わる。嘉永6(1853)年、京都白川殿より、「町田天満威徳天神」の社号を賜った。文教の神として菅原道真公を祀り、町田三天神の一つとして人々の崇敬を集める神社。境内では毎月1日に骨董市が開催される。(11月、1月は変更あり)



📍 原町田1-21-5 / 七福神 恵比寿神

10 も ち お じ ん じ ゃ
母智丘神社



大正8（1919）年、現神主黒木家が日向国北諸県郡庄内町地内（現・宮崎県都城市）石峰山頂に鎮座する母智丘大神の御分霊を勧請し、同年に創建された。祭神は豊受姫大神と大歳大神の二神を祀っている。両神は農耕の神、商売繁盛、子孫繁栄、安産の神として崇敬されている。昭和60（1985）年10月社殿の造営、同年11月に奉祝祭を行う。

📍 原町田5-12-11 / 七福神 弁財天



豆知識

天神社とは

天神とは雷神のことで、菅原道真を火雷神とする信仰が起こり、後に京都に北野天満宮が創建された。道真は、学問に熱心な人だったため、学問の神として崇められ、「天神様」として全国に広く親しまれるようになった。町田市では町田天満宮、菅原神社、南大谷天神社が町田三天神と呼ばれている。

お散歩グルメ情報



かきじまや
柿島屋



馬肉料理の柿島屋は明治17（1884）年創業の老舗。「絹の道」の中継地として馬が果たした役割は大きく、街道沿いには多くの馬頭観音があった

原町田6-19-9 ☎042-722-3532
水曜定休



かほなかのや
菓舗 中野屋




創業78年。老舗に甘んじることなく進化する和菓子屋。第一回町田私の好きなお店大賞に選ばれている。豆大福や原町田七福神にちなんだ和菓子も人気がある。

原町田4-4-7 ☎042-722-8484
水曜定休

11 なかみせしょうてんがい 仲見世商店街

昭和を思わせる懐かしい雰囲気が漂う商店街で、古き良き町田の面影が残っており、是非立ち寄りしたいところ。行列の絶えない小籠包屋やカツカレーが有名な老舗カレー店、新鮮マグロが名物の鮮魚店など個性的な飲食店や雑貨店が立ち並ぶ。夕刻をすぎるとほろ酔いの雰囲気となり、昼と夜で通りの表情が変わるのも、魅力の一つだ。




 原町田4-5-9～19

12 まちだ 町田シバヒロ



町田シバヒロは、移転した旧市役所跡地を利用し平成26（2014）年5月にオープンした芝生広場。競技用芝が植えられた約5,700㎡の敷地は、スポーツイベントをはじめ、フリーマーケットやワークショップなどの多彩な催しに対応できる設備を整えている。小田急線町田駅からは徒歩6分の見通しの良い町

田街道沿いという好立地も魅力の一つ。地域や学校のレクリエーションのほか、企業、団体の各種催しなどに利用されている。

 中町1-20-23／8:00～19:00／WC

13 かなもりすぎやまじんじや 金森杉山神社

天和3(1683)年12月、旗本高木伊勢守の一族が下屋敷内に奉斎し朝夕武運長久を祈願された。慶応2(1866)年と大正6(1917)年に社殿を新造立し、昭和11(1936)年に現在の拝殿を新築した。昭和61(1986)年に氏子



及び崇敬者の協力により本殿、玉垣、屋根替修復並びに敷地の外柵改修工事を行い、杉山宮の発展に努めた。尚、境内には八坂神社 祭神素盞鳴命を奉斎し、境内地に渋池神社を祭り、地域の守護神 渋池弁財天として崇拝されている。

 金森7-1-1

賑わいのある新たな街、南町田

南町田グランベリーパーク周辺を散策




町田市と東急株式会社が官民共同で取り組む駅周辺ののまちづくりにより、令和元（2019）年11月に南町田グランベリーパークのまちびらきを迎えた。自然と共生しながら多世代が心豊かに暮らせるよう環境に配慮した様々な取り組みが高い評価を得ている。

① グランベリーパーク




駅、商業施設、公園などがつながった新しいまち。240店舗を超えるアウトレット複合商業施設や、スヌーピーミュージアムなどがあるエリア、多様なアクティビティが楽しめる鶴間公園が隣接するアウトレット複合商業施設。ショッピングゾーンには、レストランやカフェの他、映画館、郵便局などもある。

 鶴間3-4-1 / ☎042-788-0109

② つまこうえん 鶴間公園

東急田園都市線南町田駅からグランベリーモールにつながり、徒歩3分の場所にある。境川に向かう斜面を活かした広さ5.6haの公園。スギやコナラなどの雑木林と芝生のグラウンドやスポーツ施設があり、ゆったりした開放感あふれる。砂場やシーソーなどの遊具も充実し、春にはソメイヨシノ約200本が楽しめる。公園から出て、境川沿いの散歩路は「ゆっくりロード」と名づけられ、風景を楽しみながら歩くと楽しい。




 鶴間3-1-1 / ☎042-850-6630 / WC

③ スヌーピーミュージアム



東京・六本木で平成30（2018）年に閉館したスヌーピーミュージアムが翌年、南町田グランベリーパーク内に場所を移して新しく生まれ変わった。充実した常設展が新たに加わり、全長8メートルのスヌーピーなどユニークな姿が並ぶ「スヌーピー・ルーム」も好評。

 鶴間3-1-4 / ☎042-812-2723 / 年中無休

④ まちライブラリー

市民の寄贈で成り立つ私設図書館。寄贈者のメッセージや読んだ人の感想が書かれているカードや、本を通してさまざまな人や文化に触れる「みんなの居場所」を目指している。鶴間公園とショッピングモールをつなぐエリアにあり気軽に立ち寄れる。幅広い分野の本やスヌーピーに関する本、絵本や子どもむけの本などが配架されている。本棚や内装に使用されているソファやテーブルは再開発の際に伐採した鶴間公園の木を活用し、壁の仕上げはイベントに参加者の手で仕上げられたもの。「まちに開けた図書館」として独自の空間を演出している。



📍 鶴間3-1-4グランベリーパーク パークライフ棟／火曜定休

⑤ みなみまち だ 南町田ブルーベリー園 えん



畑作農業を営んできた園主の井上さんが、平成21(2009)年に無農薬栽培で作れるブルーベリーを知り転作。安心で安全な国産の果樹栽培を開始した。現在は1100坪に15品種400本のブルーベリーを栽培しており、夏ごろになると完熟したブルーベリーが味わえる。完全予約制で摘み取り体験や食べ放題を楽しめる。7月初旬～8月初旬の期間限定。8:00～17:00で予約受付。駐車場(10台)は要予約。

📍 鶴間5-12-38／☎090-9645-5511

⑥ つる ま おおつか 鶴間の大塚

地元住民が戸塚道、学校道と呼ぶ鎌倉古道に面する、広さ180㎡、高さ6mのお椀を伏せたような形の塚。この塚は鎌倉時代に物見台として瀬谷原を見張った、または室町時代の禅秀の乱で瀬谷原が戦場となり、その戦死者を葬った、戦場で使った刀剣や農具を埋めたなどの説がある。頂には明治時代に村人たちが火難盗難除けを祈る御嶽講が作られた。その御礼の鎮座場所として造った奥多摩の御嶽神社の石祠があり、サクラやエノキ、カシが茂っている。



📍 鶴間3-12-4

7 えんじょうじ 圓成寺（浄土真宗本願寺派 山王山）

文化財



「新編武蔵風土記稿」によると北条氏綱の家臣「山中修理亮貞信」が遁世し、恵心僧都作とされる阿弥陀如来立像を安置し、天正年間（1573～1592）に開基。本堂に鎮座する聖徳太子立像は室町時代の寄木造りのもので、小ぶりな中に愛らしい表情とバランスの良い彫法は近隣の同時代の作品の

中でも優品で、町田市有形文化財に指定されている。また、本堂にある蓮のふすま絵も見事。境内には大きな桜の木がある。

📍 鶴間5-17-1 / ☎042-795-0818

8 ひ え じん じ ゃ 日枝神社

文化財

本殿は熊野神社内殿を移したもので、町田市有形文化財に指定。建築年代は享保11（1726）年。一間社流造、檜をふんだんに使い、細部まで丁寧に作られており、殿舎内の墨書から鎌倉時代の名大工・蔵並七郎兵衛によるもので、市内で鎌倉大工の関与が判明している唯一の例。また、こけら葺きの屋根からは当時鶴間村に屋根職人がいたことがわかる。



📍 鶴間6-21-24

9 おお が や と こう しん とう 大ヶ谷戸の庚申塔



📍 鶴間5-8-3

旧大山街道と鎌倉古道が斜めに交差する大ヶ谷戸バス停後ろに祀られ、文久3（1863）年建立とある。正面に「つるま」と刻まれ、上部にはしめ縄、左右に石灯籠が置かれている。江戸時代初期に矢倉沢往還が整備された頃に東海道の裏道として、また大山詣での参拝客で賑わい、開業した大ヶ谷戸宿の道標としても使用されていたようだ。後ろには天明の大飢饉で江戸から逃れてきた人を埋葬したといわれる供養塔もある。

10 つるまぐまのじんじゃ 鶴間熊野神社

村の総鎮守。創建年代不詳だが、本殿内陣に熊野那夫須美神の御神像を泰安していることから、数百年前、和歌山県の熊野本宮大社・那智大社・速玉大社の熊野三山を勧請したものと言われている。本殿建立は享保11（1726）年との記録がある。以降大飢饉や天災により再建が繰り返されており、現在の権現造りの社殿は昭和46（1971）年の再建。御祭神は伊弉諾命（いざなぎのみこと）伊弉冉命（いざなみのみこと）。御神木は熊野大神縁の榎で、葉が切れにくいことから縁結びや夫婦円満の御守。



📍 南町田4-18

11 なんまちひまわり畑 ばたけ



地元農家の横田農園が所有する畑に、7月下旬から8月にかけて約1万本のヒマワリが咲き、隠れた名所になっている。見学は自由だが、路上駐車禁止。近隣にある同農園の直売所駐車場がコインパーキングの使用を。

📍 金森6丁目の西田峯山公園バス停 付近

コラム

きゅうおおやまかいどう わたなべかざん 旧大山街道と渡邊華山

旧大山街道は、江戸時代中期以降、江戸庶民の大山詣の道として盛んに利用された「矢倉沢往還」をそう呼んだことにはじまるとされている。矢倉沢往還道は江戸の赤坂御門を起点とし、青山、三軒茶屋、多摩川を越えて二子、溝口、荏田、長津田、そして下鶴間、厚木などの宿場を過ぎて、多摩丘陵、相模野の中央から足柄峠の手前の矢倉沢関所に至り、終点の大山阿夫利神社に至った。宿場町には居酒屋、餅屋、質屋、染物屋など商家や

旅籠があった。

下鶴間宿は旧大山街道と八王子循環が交差する交通の要衝でもあった。長津田の宿場辺りから下鶴間宿辺りは、道標や道祖神、庚申塔などその面影が残るところがある。

画家であり田原藩家老の「渡邊華山」は旅の途中で下鶴間宿を訪れ、旅籠「まんじゅうや」に宿泊し、旅のエッセイ『游相日記』には当時の村の様子が記されている。

町田市の主な河川



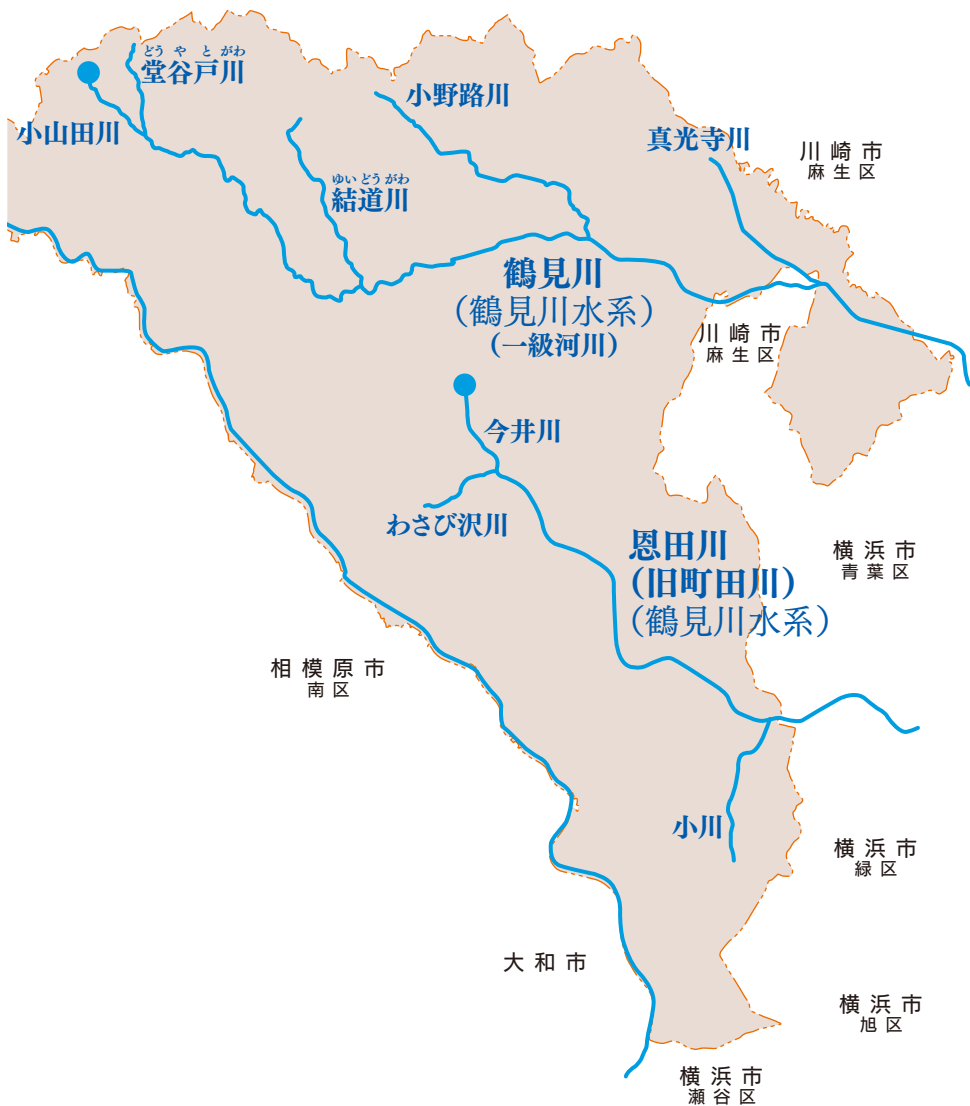
町田市の河川

町田市の河川は、鶴見川と境川の水系である。鶴見川は、下小山田町西部を水源とする小山田川と本町田の今井谷戸を水源とする恩田川（旧町田川）に分かれ、横浜市緑区中町で合流する。鶴見川の流域は、起伏の多い丘陵地で支流も多い。横浜市鶴見区東京湾に注ぐ。全長42.5kmの一級河川である。

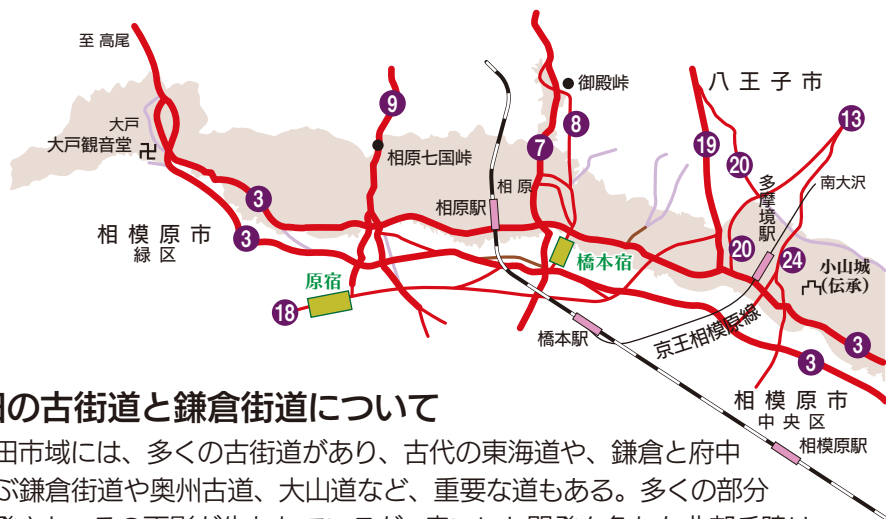
境川は、町田市相原町の大地沢に水源を発生し東京都と神奈川県境を流れ、鶴間から先は相模川の東を平行して流れ、藤沢市片瀬海岸で相模湾に注ぐ。境川は、台地を流れているので支流が少ない。全長52.1kmの二級河川である。

参考「まちだ河川マップ」1993年

多摩市



こかいどう 町田市の主な古街道



町田の古街道と鎌倉街道について

町田市域には、多くの古街道があり、古代の東海道や、鎌倉と府中を結ぶ鎌倉街道や奥州古道、大山道など、重要な道もある。多くの部分が開発され、その面影が失われているが、幸いにも開発を免れた北部丘陵は、比較的古道の様子を伝えている。

本頁では、最も古い幹線道路を「鎌倉古道」、室町～江戸時代に呼称が移ったものを「旧鎌倉街道」、それらの枝道(支道)を鎌倉道かまくらみちとしている。

1. 大和に国の政権があった古代には、古代ローマの道のように、全国には奈良の平城京に通じる「古代官道(駅路)」が7本あり(五畿七道)、道幅は10mから12mもある大規模なものだった。そのうちの「古代東海道」は奈良の都から国府をつないで、相模国、武蔵国を通り、常陸国(今の茨城県一帯)へと続いていた。町田市域では、野津田公園の東側園内付近を通っていたと推定される。
2. 鎌倉時代には、鎌倉幕府に通じる軍道としての街道が造られた。関東にあった主要な7本の鎌倉古道のうち、町田市域には、西側から「山ノ道」「上ノ道」があった。多摩丘陵のような丘陵部では、尾根の道をつないで迅速に移動できる工夫がみられる。中には古代官道や奈良・平安時代の「郡衙道」(郡の役所が建設・管理していた公用道)を利用した部分もあると考えられる。
3. 室町時代・戦国時代から江戸時代にかけて丘陵の低地にも集落ができて集落道が開かれたとき、尾根の上にあった鎌倉古道を部分的に利用しつつ、生活道・地方道として平地に造られ始めたルートも鎌倉街道と呼ばれるようになった。
4. これらの支路・支道・枝道は、「鎌倉道」として呼ばれる。中には、多摩丘陵の多摩市・町田市・川崎市域にかけて伝えられてきた鎌倉街道早ノ道や、南北朝時代以降に造られた軍事戦略的な道も鎌倉道に含まれる。
早ノ道は、国府があった府中から多摩川を南に渡って多摩丘陵に入った後、いち早く鎌倉に到達できるように造られた、早馬が駆けるための直線路であった。

町田市の指定文化財

区分	名 称	所 在 地		指定年月日
国・重要文化財	旧永井家住宅	野津田町3270	薬師池公園内	S53.1.21
都・有形文化財	妙福寺祖師堂	三輪町811		S36.1.31
	無極和尚坐像	下小山田町332	大泉寺	S36.1.31
	觀世音菩薩立像	小山町2524	福生寺	S36.1.31
	旧荻野家住宅	野津田町3270	薬師池公園内	S49.8.1
	異形台付土器(2点)	本町田3562	市立博物館内	S50.2.6
	旧多摩郡小野路村名主小島家文書	小野路町950	小島資料館	H5.3.22
	小野路組合農兵隊関係資料	小野路町950	小島資料館	H12.3.6
市・有形文化財	十六羅漢図	小山町3629	宝泉寺	S39.11.25
	長福寺山門・文珠堂・本堂格天井花丸 絵画	相原町2109	長福寺	S48.3.8
	清水寺観音堂・鐘楼・水屋	相原町701	清水寺	S48.3.8
	青木家住宅	相原町810		S52.2.23
	神蔵家住宅	金井8-26-2		S52.2.24
	妙福寺本堂・鐘楼門・高麗門(総門)	三輪町811	妙福寺	S59.2.24
	天神社本殿	南大谷451	天神社	S59.2.24
	阿弥陀三尊像	原町田3-5-12	勝楽寺	S60.4.17
	阿弥陀三尊像	本町田3654	養運寺	S60.4.17
	阿弥陀如来坐像・地藏菩薩立像	相原町3729	圓林寺	S60.4.17
	釈迦如来坐像	小山町3629	宝泉寺	S60.4.17
	菩薩立像脇侍像	小山町2524	福生寺	S62.11.13
	誕生釈迦仏立像	成瀬4464	東雲寺	S62.11.13
	聖徳太子立像	鶴間1210	円成寺	S62.11.13
	薬師如来坐像	野津田町3224	薬師堂	S62.12.11
	箭幹八幡宮隨身門	矢部町2666	箭幹八幡宮	H2.2.14
	熊野神社本殿	三輪町1925-1	熊野神社	H2.2.14
	村野常右衛門生家	小野路町1256-1 他	野津田公園内	H6.7.11
	能ヶ谷出土銭遺跡出土品一式	下小山田町4016	考古資料室	H9.3.25
	北条氏照朱印状 永禄5(1562)年7月5日	野津田町	個人所蔵	H22.12.22
	北条氏照朱印状 永禄8(1565)年3月20日	野津田町	個人所蔵	H22.12.22
	彫刻付大形石棒	下小山田町4016	考古資料室	H23.12.16
	土偶一式	下小山田町4016	考古資料室	H23.12.16
	深鉢形土器	下小山田町4016	考古資料室	H23.12.16
	細野喜代四郎書斎(処静小斎)	町田市教育委員会		H23.12.16
	隆起線文土器	下小山田町4016	考古資料室	H24.12.14
	爪形文土器	下小山田町4016	考古資料室	H24.12.14
	南多摩郡各町村縮図	野津田町897	自由民権資料館	H24.12.14
	中空土偶頭部	下小山田町4016	考古資料室	H26.1.10

区分	名 称	所 在 地	指定年月日
市・有形文化財	クルミ形土器	下小山田町4016 考古資料室	H27.1.9
	細野利平家(角屋) ガラス乾板	野津田町897 自由民権資料館	H27.1.9
	村野常右衛門関係史料	野津田町897 自由民権資料館	H29.1.13
	なすな原遺跡出土透かし彫り土製耳飾り一式(12点)	下小山田町4016 考古資料室	H30.1.24
	日枝神社本殿	鶴間6-21-24 日枝神社	H30.1.24
市・無形民俗文化財	金井獅子舞	金井町八幡神社	S38.10.22
	丸山獅子舞	相原町諏訪神社	S38.10.22
	矢部八幡宮獅子舞	矢部町箭幹八幡宮	S38.10.22
	大戸囃子	相原町大戸八雲神社	S38.10.22
	三ツ目囃子	小山町三ツ目日枝神社	S38.10.22
国・史跡	高ヶ坂石器時代遺跡 (牟場、稲荷山、八幡平)	高ヶ坂1418-3他	T15.2.24
都・史跡	田端環状積石遺構	小山町3112-2, 3113-2	S46.3.29
	青木家屋敷	相原町810他	S55.2.21
	小山田1号遺跡	小山田桜台2-16-32	S60.3.18
	本町田遺跡	本町田3455-36 他	H4.3.30
	西谷戸横穴墓群	三輪緑山1-25-8	H4.3.30
	下三輪玉田谷戸横穴墓群	三輪町897	H20.3.26
市・史跡	(通称) 代官屋敷	金井8-26-2	S39.11.25
	木曾一里塚	木曾西4-14	S44.9.2
	三輪白坂横穴墓群	三輪町1720-7他	S50.10.27
	白洲次郎・正子旧宅	能ヶ谷7-3-2	H14.11.14
市・旧跡	伝鎌倉井戸(鎌倉古道推定地)	山崎町1050-1	R3.3.15
都・旧跡	相原かま跡	相原町陽田谷戸	T15.4
	井出の沢古戦場	本町田菅原神社付近一帯	T15.4
都・名勝	福王寺旧園地(薬師池公園)	野津田町3270	H10.3.13
市・天然記念物	アカガシ群落	相原町701 清水寺内	S39.11.25
	シダレザクラ	小山町2507-1 小山市民センター内	S39.11.25
	シイ	小野路町5451 田極氏方	S39.11.25



PICK UP ▶▶▶

【町田デジタルミュージアムで、土器や横穴墓を見学できます】

インターネットを通じて町田の歴史をわかりやすくご紹介するデジタルアーカイブ「町田デジタルミュージアム」が公開中です。2000点以上の考古、歴史、民俗資料が掲載され、そのうち代表的なものは3Dを含む高精細画像でご覧いただけます。また、時代ごとの説明・年表に加え、地図からも史跡、遺跡を検索することができ、いつでも、どこでも町田の歴史をお楽しみいただけます。



閲覧はコチラから→

町田市の主要催事・イベントカレンダー

1月	原町田七福神めぐり 下旬 雪遊びのプレゼント(長野県小谷村提携) J2リーグ(FC町田ゼルビア)開幕	新春文化の祭典(和光大学ポプリホール鶴川)
2月	梅まつり(薬師池公園) 3日 節分豆まき(町田天満宮、菅原神社ほか)	上旬 つり雛まつり(芹ヶ谷公園ひだまり荘) 下旬 町田市民文化祭「春の催し」(町田市民ホール)
3月	下旬 町田さくらまつり(尾根緑道・恩田川・芹ヶ谷公園)	
4月	中旬 町田ぼたん園・えびね苑開園 中旬 まちだ全国パレエココンクール(町田市民ホール) 下旬 タケノコ掘り体験(小野路奈良ばい谷戸)	
5月	上旬 フェスタまちだ(原町田大通り 他)	
6月	フリーグ(ASVペスカドーラ)開幕 中旬 紅花まつり(大賀藕絲館) しょうぶあじさいまつり(薬師池公園)	下旬 町田ダリア園開園
7月	町田全国ピアノコンクール(町田市民ホール) 中旬 金井獅子舞(金井八幡社) 中旬 諏訪神社例大祭(相原)	下旬 町田一番街フェスティバル(ジャズコンサート) 下旬 蓮まつり(大賀藕絲館) 下旬 観蓮会(薬師池公園)
8月	第3日曜日 丸山獅子舞(諏訪神社) 下旬 菅原神社 例大祭	
9月	上旬 ザ・フェスタ栄通り 上旬 フェスタ中町(町田第一小学校校庭 他) 中旬 矢部八幡獅子舞(矢部八幡神社)	下旬 町田市民文化祭「秋の催し」(町田市民ホール) 下旬 町田天満宮 例大祭
10月	中旬 相原ふれあいフェスティバル(相原中央公園) 中旬 町田大道芸(パークアベニュー商店会 他) 下旬 町田時代祭り(芹ヶ谷公園 他)	下旬 ゆうゆう版画美術館まつり 下旬 文学館まつり 下旬 金井フェスティバル(金井スポーツ広場)
11月	キラリ☆まちだ祭(町田夢生スッスイ祭)(原町田大通り、町田シバヒロ 他) 上旬 菊花展(薬師池公園)	中旬 つるまパーク大作戦(鶴間公園) 紅葉まつり(薬師池公園) 開運妙見尊例祭(浄運寺)
12月	年末大野菜市(小野路里山交流館)	
毎月	第一日曜日 日曜朝市(教育センター校庭) 第3土・日曜日 やくしLOCALファーマーズマーケット 1日 町田天満宮がらくた市(11月・1月は変更あり)	

発行年月日	2023年3月31日
企画・発行	一般社団法人 町田市観光コンベンション協会 〒194-0013 東京都町田市原町田4-10-20 ☎042-724-1951 FAX：042-724-1952
監修・編集協力	町田地方史研究会、まちだ観光案内人
制作	株式会社タウンニュース社

この事業は、「(公財)東京観光財団 観光まちづくり支援事業助成金」を活用して実施しています。